医学教育分野別評価
東海国立大学機構　名古屋大学医学部医学科
年次報告書
2026年度
評価受審年度2027年

2026年 10月作成・提出

前回の受審における評価の内容 3
はじめに 6
1. 使命と学修成果 6
1.1 使命 6
1.2 大学の自律性および教育・研究の自由 8
1.3 学修成果 10
1.4 使命と成果策定への参画 12
2. 教育プログラム 15
2.1 教育プログラムの構成 15
2.2 科学的方法 17
2.3 基礎医学 19
2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学 21
2.5 臨床医学と技能 24
2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間 28
2.7 教育プログラム管理 29
2.8 臨床実践と医療制度の連携 30
3. 学生の評価 33
3.1 評価方法 33
3.2 評価と学修との関連 35
4. 学生 38
4.1 入学方針と入学選抜 38
4.2 学生の受け入れ 40
4.3 学生のカウンセリングと支援 41
4.4 学生の参加 43
5. 教員 46
5.1 募集と選抜方針 46
5.2 教員の活動と能力開発 47
6. 教育資源 52
6.1 施設・設備 52
6.2 臨床実習の資源 53
6.3 情報通信技術 55
6.4 医学研究と学識 57
6.5 教育専門家 60
6.6 教育の交流 62
7. 教育プログラム評価 67
7.1 教育プログラムのモニタと評価 67
7.2 教員と学生からのフィードバック 71
7.3 学生と卒業生の実績 72
7.4 教育の関係者の関与 74
8. 統轄および管理運営 77
8.1 統轄 77
8.2 教学 78
8.3 教育予算と資源配分 79
8.4 事務と運営 81
8.5 保健医療部門との交流 82
9. 継続的改良 84

前回の受審における評価の内容

医学教育分野別評価の受審 2021 年度
（実地調査 2021 年 6 月 21 日～6 月 25 日）
医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.32 で受審

総評

名古屋大学の学術憲章の中で述べられている「勇気ある知識人」は、広く名古屋大学の理念として関係者に知られている。医学部の使命として名古屋大学医学部理念が定められ、研究を特徴とする医学教育を実践している。

本評価報告書では、名古屋大学医学部医学科のこれまでの改革実行と今後の改革計画を踏まえ、国際基準をもとに評価を行った結果を報告する。評価は現在において実施されている教育について行った。

医学研究を重視するという理念のもと、博士課程プレプログラムなどが定められていることや、基礎医学セミナーにおいて、6か月間の研究室配属が行われ、多数の学生が研究活動に参加していることは評価できる。臨床実習で選択できる学外の施設が十分に確保され、これらの施設が「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」を構成し、卒業生の実績に関する情報を提供している。総合医学教育センターに医学教育専門家が配置され、医学教育の改革に貢献している。

一方で、学修成果の周知や、行動科学などの体系的なカリキュラムの設定と実践、重要な診療科で積極的に診療に参加できる臨床実習の充実などに課題がある。さらに、技能および態度についての評価や形成的評価の充実、指導教員によるメンター制度の充実、学外実習病院の指導医への能力開発などに課題も残されている。各教育組織の役割と責任を明確にしたうえで、教育プログラムを適切に評価し、改善・計画・実施する体制を構築することにより、課題の改善が十分期待されるが、今後ともさらなる検討が必要である。

基準の適合についての評価結果は、36 の下位領域の中で、基本的水準は 22 項目が適合、14 項目が部分的適合、0項目が不適合、質的向上のための水準は 20 項目が適合、 15 項目が部分的適合、0項目が不適合、1項目が評価を実施せずであった。なお、領域 9の「質的向上のための水準」については今後の改良計画にかかるため、現状を評価することが分野別評価の趣旨であることから、今回は「評価を実施せず」とした。

概評

領域 1

名古屋大学の学術憲章の中で述べられている「勇気ある知識人」は、名古屋大学の理念として関係者に周知されている。医学部の使命として名古屋大学医学部の理念が定められ、その全ての項目で医学研究について述べられている。また、学修成果としてディプロマポリシーが定められ、その策定に学生が参画している。

使命の中で、卒後教育の準備や生涯学習への継続、さらに社会的責任についてより明確に定めるべきである。また、学修成果を学生、教員をはじめ、全ての教育関係者に十分に周知すべきである。さらに、患者や他の医療職など、広い範囲の教育の関係者からの意見を学修成果に反映させることが望まれる。

領域 2

医学研究を重視するという理念のもと、博士課程プレプログラム、学士編入学用のカリキュラムが定められていることや、基礎医学セミナーにおいて、6か月間の研究室配属が行われていることは評価できる。

行動科学、医療倫理学、医療法学の体系的なカリキュラムを定め、確実に実践すべきである。臨床実習に関して、重要な診療科で学修するための十分な時間を全員に確保し、チームの一員としてより積極的に診療に参加できる実習を充実させるべきである。6年間の医学教育プログラムにおいて、全学教育科目、基礎医学、行動科学、社会医学および臨床医学を適切な関連と配分で構成すべきである。また、学修成果を段階的に達成できるように、教育範囲、教育内容、教育科目の実施順序を明示すべきである。

全ての学生が、徐々に患者診療へ参画する機会を確実に確保することが望まれる。カリキュラムの水平的統合、垂直的統合を確実に実施することが望まれる

領域 3

過去の試験問題等を収集し、医学教育専門家による分析が開始されている。

より多くの科目で、知識だけでなく、技能および態度について評価方法や基準を明示し、確実に実施すべきである。臨床実習では態度・技能評価も確実に実施すべきである。全ての評価において信頼性、妥当性を検証することが望まれる。臨床実習におけるMiniCEX、360度評価などの活用を推進することが期待される。目標とする学修成果について、評価方法の整合を示すとともに、形成的評価を積極的に取り入れ、学修を促進するとともに、学修の進度を段階的に判定できる評価を行うべきである。評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行い、全ての学生の学修を確実にすることが期待される。

領域 4

医学部の理念、アドミッションポリシーに基づいて、一般入試（前期日程、後期日程）、推薦入試、学士編入学入試など多様な選抜方法が実施され、それに対応した教育プログラムがある。医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会に学生委員が規定され、実際に活動を行っている。

学生を支援するためのプログラムをさらに充実させるべきである。さらに、指導教員によるメンター制度を充実し、教育進度に基づいて学修上のカウンセリングを提供することが望まれる。使命を策定する委員会と学生生活委員会に、学生が実質的に参加すべきである。

領域 5

教員の募集および選考は医学部の理念に基づいて行われている。「エフォート割合のガイドライン」に基づき「教員個人評価活動報告書兼自己評価書」により教員を評価している。全教員のカリキュラム全体への理解を深めるべきである。臨床医学の教員に加えて全学教育科目・基礎医学・社会医学の教員、および学外実習病院の指導医への能力開発を進めるべきである。「PBL チュートリアル」と「基礎的臨床技能実習」の指導体制を充実することが望まれる。女性教員の比率に充分な配慮を心がけるべきである。教員の教育活動のモニタを充分に行うべきである。

領域 6

学生研究会の活動や基礎医学セミナー等を設定し、多数の学生が研究活動に参加していることは評価できる。「プライマリ・ケア実習」や「臨床実習Ⅱ」で選択できる学外の施設が充分に確保されている。全ての学生が学外でも充分な情報サービスを利用でき、NUCTは

学内外から利用可能であり、e-learning が行われている。総合医学教育センターに医学教育専門家が配置され、医学教育の改革に貢献している。多くの学生を海外に派遣するのみならず、海外の医学生を多数受け入れていることは評価できる。

学生が学内・学外それぞれの臨床実習施設において、実際に経験する症候、疾患分類、患者数を把握し、確実に必要な臨床経験を積める体制を整備すべきである。患者アンケートの結果に基づいて、臨床実習施設を評価することが望まれる。情報通信技術の活用方法について、それを促し評価する方針を履行すべきである。学生向けの電子カルテの利用の促進が望まれる。教育専門家について、学内の教育学部や岐阜大学との連携交流が望まれる。総合医学教育センターの活動に基づき、医学部をあげて教育活動を促進すべきである。国内の教育機関との交流をさらに促進すべきである。

領域 7

教学データを一元化して集積・分析する体制として、カリキュラム評価（IR）委員会を新たに設置している。カリキュラム評価（IR）委員会と医学部医学科教育委員会には、全学年から学生委員が選出されている。学生アンケートを実施し、臨床実習カリキュラム開発の参考としている。「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」から、卒業生の実績に関する情報を得ている。

各教育組織の役割と責任を明確にしたうえで、教育プログラムを適切に評価し、改善・計画・実施する体制を構築すべきである。教育プログラム評価を行う組織は、カリキュラムの立案と実施を行う組織とは独立しているべきである。入学時から卒業後まで継続して、長期的に学修成果の達成度を評価する方法を新たに構築すべきである。使命と学修成果、カリキュラム、資源の提供に関して、学生と卒業生の実績を確実に分析すべきである。教育プログラムに関して、教員と学生から系統的にフィードバックを求めるべきであり、定期的かつ包括的に収集されたさまざまな教学データに基づいてカリキュラム評価（IR）委員会が分析した教育プログラムの評価結果を、カリキュラムに確実に反映すべきである。

また、教員と学生からのフィードバックの結果を確実に利用して、教育プログラムを開発することが望まれる。学生の背景と状況について、学生と卒業生の業績を分析することが望まれる。学生カウンセリングについて、責任がある委員会へフィードバックを提供することが望まれる。広い範囲の教育の関係者に、卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。

領域 8

総合医学教育センターの位置づけ、役割および責務をより明確に規定すべきである。また、教育活動の実務を担う医学部医学科教育委員会に、広い範囲の教育の関係者の意見を反映することが望まれる。教育活動の増大に対応して、さらに事務組織を充実させることが期待される。

領域 9

2007年と2014年に大学評価・学位授与機構（現大学改革支援・学位授与機構）による機関別認証評価を受け、また、今回の医学教育分野別評価によって医学教育の自己点検評価を行い、継続的に改良を行っている。医学部医学科教育委員会に加えてカリキュラム評価（IR）委員会を設置し、教育を見直し、改善する体制を整えている。今後も、医学教育の実施、評価、改善のサイクルの充実を図り、継続的な改良を進めることが期待される。

医学教育分野別評価　東海国立大学機構　名古屋大学医学部医学科　年次報告書　2026年度

医学教育分野別評価の受審2021（令和3）年度
受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.32
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36

はじめに

本学医学部医学科は、2021年度に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2022年2月1日から7年間の認定期間が開始した。

医学教育分野別評価基準日本版　Ver.2.36を踏まえ、2026年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2025年4月1日～2026年3月31日までを対象としている。また、重要な改定のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36の転記は省略した。

1.　使命と学修成果

領域1-使命と学修成果における「改善のための助言」を受け、生涯学習や国際保健の観点についての明確化も含めた使命・学修成果の見直しが今後の課題といえる。

1.1 使命

基本的水準：適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）
特記すべき良い点（特色）
- 名古屋大学の学術憲章の中で述べられている「勇気ある知識人」は、関係者に周知されている。

改善のための助言
- 使命の中で、卒後教育の準備や生涯学習への継続、さらに社会的責任についてより明確に定めるべきである。

関連する教育活動、改善状況
- 名古屋大学医学部は理念および3ポリシー（ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシー）を定めている。
- カリキュラム評価(Institutional Research： IR)委員会では、理念およびディプロマポリシーで定める学修成果の内容が達成されているか検証するために、学生に対するディプロマポリシー達成状況に関する自己評価を2021年度より開始しており、2025年度も年度末に実施している。
- 2022年度からは卒業生および卒業生進路先医療機関を対象としたディプロマポリシー達成状況に関する調査を開始している。

- 上記の結果を踏まえて、カリキュラム評価（IR）委員会では2025年3月に医学部医学科教育委員会に対し理念および3ポリシーの定期的な見直しを実施することを提言した。それを受けて2025年4月の医学部医学科教育委員会にて理念および3ポリシーの見直しが議題となり、議論が行われた。その結果、今後医学部医学科教育委員会の下部組織としてワーキンググループを作成し、理念およびディプロマポリシーの見直しを行う方針となった。

今後の計画

- カリキュラム評価（IR）委員会では、理念および3ポリシーにて定める本学の使命が達成されているかを検証するために、引き続き在学生だけでなく、卒業生および卒業生の進路先に対しても学修成果達成状況に関する調査を実施していく。
- 学修成果達成状況に関する調査結果や国内外の社会の変化を考慮し、今後医学部医学科教育委員会にて定期的に理念および3ポリシーの見直しを実施していく。その際には、理念および3ポリシーの中で、卒後教育の準備、生涯学習への継続、社会的責任、国際的健康・医療の観点についてより明確に定めることを考慮する。

改善状況を示す根拠資料

資料01　2025年度学修成果(ディプロマポリシー)達成調査（2026年3月実施）
資料02　2021年～2025年度(推移)学修成果(ディプロマポリシー)(2026年3月実施)
資料03　2025年度卒業生を受け入れていただいた医療機関等へのアンケート調査
資料04　2025年度卒業生調査(2025年10月実施)
資料05　2025年度「理念・ディプロマポリシーの見直し」についての提案書
資料06　2025年度第1回医学部医学科教育委員会議事メモ「理念・ディプロマポリシーの見直しについて」

質的向上のための水準：適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 医学部の理念の全ての項目で医学研究について述べられている。

改善のための示唆

· 医学部の理念の中で国際的健康、医療の観点について、さらに明確にすることが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 名古屋大学医学部では理念の4項目の中に、「医学研究および研究者の育成を目指すこと」、「世界の医療水準の向上と世界的に開かれた医学研究及び医療システムの構築を目指すこと」を定めている。
- カリキュラム評価（IR）委員会では、理念および3ポリシーにて定める本学の使命が達成されているかを検証するために、在学生だけでなく、卒業生および卒業生の進路先に対しても学修成果達成状況に関する調査を毎年実施している。
- カリキュラム評価（IR）委員会では、2021年度より下記の5調査を毎年定期的に実施しており、学生、教員をはじめ、全ての教育関係者に対する周知の機会としている。

  ①学生に対する「ディプロマポリシー達成状況に関する自己評価」

  学修成果が適切に達成されているかを検証するために実施。

②卒業生を受け入れていただいた医療機関等へのアンケート調査

卒業生の進路先医療機関（初期研修先など）に対し、本学の卒業生のディプロマポリシーの達成状況や本学の卒業生の強みや弱みなどについて調査している。

③卒業生に対するディプロマポリシー達成状況に関する調査

2022年度は全卒業生を対象、2023年度以降は年一回の頻度で卒後1年目・5年目・10年目・15年目の卒業生を対象に毎年実施している。

④教員に対する教育状況調査

参考資料として上記の3調査の結果も共有し、教員への周知も努めている。

⑤新入生アンケート

新入生に対しては、カリキュラム評価（IR）委員会と学生研究会と共同で、入学時オリエンテーション時に新入生アンケートを実施している。アンケート内にディプロマポリシー10項目を掲載し新入生への周知も努めている。2025年度新入生の同アンケートでは新入生の90%以上が入学前にディプロマポリシー10項目を知っていたと回答している。

- カリキュラム評価（IR）委員会では2025年3月に医学部医学科教育委員会に対し理念および3ポリシーの定期的な見直しを実施することを提言した。それを受けて2025年4月の医学部医学科教育委員会にて理念および3ポリシーの見直しが議題となり、医学部の理念の中での国際的健康、医療の観点についてさらに明確にすることも含めて議論が行われた。その結果、今後医学部医学科教育委員会の下部組織としてワーキンググループを作成し、理念およびディプロマポリシーの見直しを行う方針となった。

今後の計画

- 前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料

資料07　2025年度新入生アンケート(2025年4月実施)

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準：適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 医学部長のもとに医学部医学科教育委員会を組織して、自律性を持って教育施策を実施している。

改善のための助言

· なし

関連する教育活動、改善状況

- 医学部医学科教育委員会では2022年度から2025年度にかけて令和4年度版医学教育モデル・コア・カリキュラム（コアカリ）の内容も踏まえたカリキュラム改変にあたった。新カリキュラム策定にあたり、新カリキュラム公開検討会を開催し、広く学生や教育関係者の意見を求めた。これまでに2022年度は全10回、2023年度は全3回、2024年度は全3回の公開検討会を開催した。

- 新カリキュラム実施後の授業アンケートや年度末の学修環境調査（年間カリキュラムアンケート）で寄せられた意見は、各講座および医学部医学科教育委員会、各実施委員会に提供を行っている。

今後の計画

- 引き続き、公開検討会や各種アンケートなど、広く教員と学生の意見を求める機会を確保し、2026年度以降の新カリキュラムの継続的改良にあたっていく。

改善状況を示す根拠資料

冊子資料①　2025年度名古屋大学医学部医学科教科案内(SYLLABUS)
冊子資料②　2026年度名古屋大学医学部医学科教科案内(SYLLABUS)
資料05 2025年度「理念・ディプロマポリシーの見直し」についての提案書
資料06 2025年度第1回医学部医学科教育委員会議事メモ「理念・ディプロマポリシーの見直しについて」

質的向上のための水準：適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会が現行カリキュラムに関する検討を行っている。

改善のための示唆

· 特定の科目、特に臨床実習での教育の向上のために最新の研究結果を利用することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 本学は2023年度文科省公募事業「質の高い臨床教育・研究の確保事業」に採択され、2023年度～2025年度にかけて「スペシャリストの継続的育成によるサステナブルな臨床教育・研究力の強化事業」を実施した。同事業では、医学教育専門家と各診療科との対話型Faculty Development (FD)を通じて診療参加型臨床実習の推進に向けた意見交換や支援などを行っている（詳細は2.5参照）。
- 本学は2025年度も引き続き、2022年度に文部科学省によるポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業に採択された「医療人類学とバーチャル教育を活用した屋根瓦式地域医療教育（NOVI+A）」を名古屋大学と岐阜大学と共同で実施している。具体的には本学総合医学教育センターが主体となり、医療人類学、バーチャル教育、屋根瓦式地域医療教育をキーワードとし、地域枠医学生向けの特別プログラム、及び全医学生を対象とした地域医療教育を企画し活動を行っている。

今後の計画

- 上記のような公募事業・プロジェクトも活用しながら、診療参加型臨床実習支援の取り組みや各診療科との対話型FD、バーチャル教育、屋根瓦式教育などの先進的な取り組みについても引き続き取り入れていく。

改善状況を示す根拠資料

資料08　2025年度医療人類学とバーチャル教育を活用した屋根瓦式地域医療教育

(NOVI+A)報告書
資料09 文科省 質の高い臨床教育・研究の確保事業「スペシャリストの継続的育成によるサステナブルな臨床教育・研究力の強化事業」2025年度報告書

1.3 学修成果

医学教育分野別評価基準日本版の改訂があり、Ver.2.36の内容は以下のとおりである。
医学部は、

- 以下の項目に関連して、学生が卒業時に発揮する能力を学修成果として明確にしなければならない。
  - 卒前教育で達成すべき基本的知識・技能・態度（B 1.3.1）
  - 将来にどの医学専門領域にも進むことができる適切な基本（B 1.3.2）
  - 保健医療機関での将来的な役割（B 1.3.3）
  - 卒後研修（B 1.3.4）
  - 生涯学習への意識と学修技能（B 1.3.5）
  - 医療を受ける側からの要請、医療を提供する側からの要請、その他の社会からの要請（B 1.3.6）
- 学生が学生同士、教員、医療従事者、患者、およびその家族を尊重した適切な行動をとることを確実に修得させなければならない。（B 1.3.7）
- 学修成果を周知しなくてはならない。（B 1.3.8）

基本的水準：適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）
特記すべき良い点（特色）
・ 学修成果として、ディプロマポリシーを定めている。
改善のための助言
・ 学修成果を学生、教員をはじめ、全ての教育関係者に十分に周知すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 名古屋大学医学部ではディプロマポリシーとして学修成果を定めている。
- カリキュラム評価（IR）委員会では、2021年度より下記の6調査を毎年定期的に実施しており、学生、教員をはじめ、全ての教育関係者に向けたディプロマポリシー周知の機会としている。

①学生に対する「ディプロマポリシー達成状況に関する自己評価」
学修成果が適切に達成されているかを検証するために実施している。

②学生向けに学修環境調査
年度末にカリキュラム・試験/設備・施設/進路・キャリアについて調査を実施している。

③卒業生を受け入れていただいた医療機関等へのアンケート調査
卒業生の進路先医療機関（初期研修先など）に対し、卒後研修の場面を踏まえた本学の卒業生のディプロマポリシーの達成状況や本学の卒業生の強みや弱みなどについて調査している。

④卒業生に対しディプロマポリシー達成状況に関する調査
2022年度は全卒業生を対象、2023年度以降は年一回の頻度で卒後1年目・5年

目・10年目・15年目の卒業生を対象に実施している。

⑤教員に対する教育状況調査

参考資料として上記の調査結果も共有し、教員への周知も努めている。

⑥新入生アンケート

新入生に対しては、カリキュラム評価（IR）委員会と学生研究会と共同で、入学時オリエンテーション中に新入生アンケートを実施している。アンケート内にディプロマポリシー10項目を掲載し新入生への周知も努めている。2025年度新入生の同アンケートでは新入生の90%以上が入学前にディプロマポリシー10項目を知っていたと回答している。

- ディプロマポリシーは冊子体のシラバス・学生便覧への掲載へのほか、一般選抜学生募集要項にも掲載している。また、入学生募集冊子「医学への道」はディプロマポリシーのホームページ上のURLを掲載している。
- カリキュラム評価（IR）委員会では2025年3月に医学部医学科教育委員会に対し理念および3ポリシーの定期的な見直しを実施することを提言した。それを受けて2025年4月の医学部医学科教育委員会にて理念および3ポリシーの見直しが議題となり、医学部の学修成果（ディプロマポリシー）の中での国際保健の観点についてさらに明確にすることも含めて議論が行われた。その結果、今後医学部医学科教育委員会の下部組織としてワーキンググループを作成し、理念およびディプロマポリシーの見直しを行う方針となった。

今後の計画

- カリキュラム評価（IR）委員会では、引き続き在学生だけでなく、卒業生および卒業生の進路先に対しても学修成果達成状況に関する調査を実施していく。
- 学修成果達成状況に関する調査結果や国内外の社会の変化を考慮し、引き続き医学部医学科教育委員会にて定期的に理念および3ポリシーの見直しを実施していく。

改善状況を示す根拠資料

冊子資料①　2025年度名古屋大学医学部医学科教科案内(SYLLABUS)
冊子資料②　2026年度名古屋大学医学部医学科教科案内(SYLLABUS)
資料01　2025年度学修成果(ディプロマポリシー)達成調査(2026年3月実施)
資料02　2021年～2025年度(推移)学修成果(ディプロマポリシー)(2026年3月実施)
資料03　2025年度卒業生を受け入れていただいた医療機関等へのアンケート調査
資料04　2025年度卒業生調査(2025年10月実施)
資料10　2025年度学生向け学修環境調査(2026年2月実施)
資料11　2025年度教員向け教育状況調査(2026年3月実施)
資料07　2025年度新入生アンケート(2025年4月実施)
資料05　2025年度「理念・ディプロマポリシーの見直し」についての提案書
資料06　2025年度第1回医学部医学科教育委員会議事メモ「理念・ディプロマポリシーの見直しについて」

質的向上のための水準：

医学教育分野別評価基準日本版の改訂があり、Ver.2.36の内容は以下のとおりである。

医学部は、

- 卒業時までに獲得しておく学修成果と卒後研修における学修成果をそれぞれ明確にし、両者を関連づけるべきである。（Q 1.3.1）

- 医学研究に関して目指す学修成果を定めるべきである。（Q 1.3.2）
- 国際保健に関して目指す学修成果について注目すべきである。（Q 1.3.3）

質的向上のための水準：適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審） **特記すべき良い点（特色）** · ディプロマポリシーと卒後研修修了時の学修成果が関連づけられている。 **改善のための示唆** · 国際保健に関して学生がより理解できるように、学修成果に記述することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況
- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画
- 前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料
- 前項「基本的水準」と同じ

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準：部分的適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審） **特記すべき良い点（特色）** · 学生が医学部医学科教育委員会の正式な委員になり、ディプロマポリシー策定の議論に参加している。 **改善のための助言** · 使命としての医学部の理念の策定には学生が参画しておらず、今後使命を改定する際には、学生が策定に参画すべきである。

関連する教育活動、改善状況
- カリキュラム評価（IR）委員会では、在学生を対象とした「学修成果（ディプロマポリシー）達成状況に関する自己評価」、「卒業生を受け入れていただいた医療機関等へのアンケート調査」および卒業生を対象とした「卒業生アンケート」を年一回定期的に実施し、学修成果の達成状況を評価するとともに、本学の教育や学修成果に関する意見を収集している。その結果は学生も委員に含むカリキュラム評価（IR）委員会にて議論され、同じく学生も委員に含む医学部医学科教育委員会にも提供され審議されている。
  また、年度末（2026年3月）には上記の調査結果を資料として全教員向け教育状況調査を実施した。
- カリキュラム評価（IR）委員会では2025年3月に医学部医学科教育委員会に対し理念および3ポリシーの定期的な見直しを実施することを提言した。それを受けて

2025年4月の医学部医学科教育委員会にて理念および3ポリシーの見直しが議題となった。両委員会には学生委員も参加しており、学生委員が同席する中で議論が行われた。

今後の計画

- 在校生、教員向けの調査は今後も定期的に実施し、学修成果およびカリキュラムへの意見を求めていく。また卒業生調査や卒業生進路先調査を通じた幅広い教育関係者からの学修成果およびカリキュラムへの意見収集も引き続き実施していく。
- 学修成果達成状況に関する調査結果や国内外の社会の変化を考慮し、今後医学部医学科教育委員会の下部組織としてワーキンググループにて、理念およびディプロマポリシーの見直しを実施していく。その際には、3ポリシーだけでなく理念の策定にも学生が参画することを考慮する。

改善状況を示す根拠資料

資料01　2025年度学修成果(ディプロマポリシー)達成調査(2026年3月実施)
資料02　2021年～2025年度(推移)学修成果(ディプロマポリシー)(2026年3月実施)
資料03　2025年度卒業生を受け入れていただいた医療機関等へのアンケート調査
資料04　2025年度卒業生調査(2025年10月実施)
資料11　2025年度教員向け教育状況調査(2026年3月実施)
資料05　2025年度「理念・ディプロマポリシーの見直し」についての提案書
資料06　2025年度第1回医学部医学科教育委員会議事メモ「理念・ディプロマポリシーの見直しについて」
資料12　2025年度医学部医学科教育委員会名簿
資料13　2025年度医学部カリキュラム評価（IR）委員会名簿

質的向上のための水準：部分的適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 地域医療機関などからの意見を聴取している。

改善のための示唆

· 患者や他の医療職など広い範囲の教育の関係者からの意見を聴取して、使命と学修成果に反映させることが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- カリキュラム評価（IR）委員会では2021年度より毎年年度末に学生向け「学修成果（ディプロマポリシー）達成状況に関する自己評価」、および教員に対し学修成果も含めたカリキュラムに関する意見を収集する「教育状況調査」を実施しており、その結果を、学外者、他の医療職も委員に含むカリキュラム評価（IR）委員会にて定期的に議論している。
- 2022年度から毎年実施している「卒業生を受け入れていただいた医療機関等へのアンケート調査」においても、学修成果の達成状況とともに、本学の教育や学修成果に関する意見を収集しており、その結果は医学部医学科教育委員会、医学科会議にも提供するとともに、教員向け教育状況調査の資料としている。
- 2025年3月カリキュラム評価（IR）委員会では医学部医学科教育委員会に対し理念および3ポリシーの定期的な見直しに関する提言を行った。

今後の計画

- カリキュラム評価（IR）委員会では、引き続き在学生だけでなく、卒業生および卒業生の進路先に対しても学修成果達成状況に関する調査を実施していく。
- また、それらの結果や、国内外の社会の変化を考慮し、引き続き医学部医学科教育委員会にて理念および3ポリシーの見直しを定期的に実施していく。その際には、患者や他の医療職からの意見の聴取を考慮する。

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

2. 教育プログラム

領域2-教育プログラムにおける「改善のための助言」を受け、診療参加型臨床実習の推進と幅広い学年における患者診療への参画機会の確保が今後の課題といえる。

2.1 教育プログラムの構成

基本的水準：適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

- 医学研究を重視するという理念のもと、MD・PhDコース、博士課程プレプログラム、学士編入学者用のカリキュラムが定められていることは評価できる。
- 学部学生が大学院の講義に参加することができる点は評価できる。
- 学修意欲を刺激するために、医学入門や基礎医学セミナーなどが開講されている。

改善のための助言

- 学修成果の達成度を段階的に測定できるように、カリキュラムを設定すべきである。
- より多くの科目で、学生が自分の学修過程に責任を持てるように、学修意欲を刺激し、準備を促して、学生を支援するようなカリキュラムや教授方法/学修方法を採用すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 東海国立大学機構における岐阜大学医学部医学科との教育連携の推進

  2022年4月から1法人2大学の国立大学法人東海国立大学機構が設置されたことを契機に、両大学の医学部長・病院長との協議により、岐阜大学医学部医学科と名古屋大学医学部医学科との教育連携を推進することとなった。当面は、医学専門教育、教学IR、ICT教育、共用試験（Objective Structured Clinical Examination[OSCE]・CBT[Computer Based Testing]）、地域医療教育、アンプロフェッショナルな態度・行動の評価・再教育の6項目において連携を進めることとし、両大学の間にワーキンググループ（WG）を設置した。

  （連携の具体的取り組み）
  - 名古屋大学と岐阜大学の医学専門科目の連携については、両大学の同様の科目を担当する教員同士が、それぞれの講義・実習内容等を共有し、意見交換する場を設けている。
    実際の岐阜大学との教育連携の一例として、2022年度からは1年生を対象として「医学入門」の一部の講義で岐阜大学との連携授業を実施しており、2023年度以降も継続している。
  - 両大学のIR組織が連携し、2022年度より卒業時(6年生)を対象に将来の進路や目指す医師像に関する共通設問でのアンケート調査を実施しており、2023年度以降も継続している。
  - 臨床実習ポートフォリオシステムの共同開発を行っている。

- 2024年度以降毎年6月には、両大学をオンラインで繋いだ連携授業「論理的倫理的-白熱ディスカッション」を実施している。「健康格差を悪化させる言語障壁に臨床医はどう対応すべきか」といった倫理的な課題に対し、それぞれの大学で学生グループごとにプレゼンテーション動画を作成させ、相互に評価した。授業当日は、選抜されたグループがオンラインで発表を行い、全員でディスカッションや質疑応答を行った。
- OSCEでは両大学間で運営補助者を派遣し合うとともに、運営に関する情報共有を実施している。

- 本学では2022年度から2025年度にかけて令和4年度版コアカリの内容も踏まえたカリキュラム改変にあたっている。医学部医学科教育委員会では、カリキュラム評価（IR）委員会と合同で、新カリキュラムについてのアンケートを学生・教員向けに実施し、学生や教員の意見を踏まえながら新カリキュラムの作成にあたった。
- 総合医学教育センターが中心となって、名古屋大学医学部の教員に向けて、「東海国立大学機構名古屋大学医学部FD」と称するFDを2021年度より開始している（詳細は5.2参照）。同FDでは「臨床実習でのWorkplace-based Assessment」や「プロフェッショナリズム」など学生を支援するような教授方法の指導もテーマとしている。
- 2025年1月からは、より幅広い教員が気軽に参加しやすいよう、実践的な内容をテーマとした月一回開催の医学教育基礎FD（Faculty Development of Doctors' Education and Learning for Advancement： DELA-FD)も開始している（詳細は5.2参照）。同FDでは「講義法」「フィードバック」「医学教育モデル・コア・カリキュラム」など学生を支援するような教授方法の指導もテーマとしている。

今後の計画
- 岐阜大学とは2026年度以降も引き続き授業連携を実施予定である。
- 東海国立大学機構名古屋大学医学部FDは、各分野からの様々なテーマを取り上げ、教員・学生意見交換の場ともなるように、引き続き年に数回の開催を予定していく。

改善状況を示す根拠資料

資料14　2025年度東海国立教育連携ＷＧ 議事録・活動報告
資料15　東海国立大学機構名古屋大学医学部FD ポスター(第1回～第10回)
資料16　東海国立大学機構名古屋大学医学部FD 参加人数(第1回～第10回)
資料17　医学教育基礎FD(第1回～第12回)

質的向上のための水準：適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための示唆

・　生涯学習につながるカリキュラムをさらに充実させることが望まれる。

関連する教育活動、改善状況
- キャリア教育など、生涯教育につながるカリキュラムを拡充することを目指し、

「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」では、医学部卒業後に多様な分野で活躍している卒業生を招いた学生・若手医師向けキャリアセミナーを定期的に開催している。2025年度は全2回開催している。

第1回：2022年11月
女性医師としてのキャリアパス、米国での救急医の経験について
第2回：2023年2月
女性研究医としてのキャリアパス、在宅診療医としてのキャリアパスについて
第3回：2023年6月
産婦人科学女性医師・クリニック院長
第4回：2023年12月
公衆衛生を学ぶ放射線科医・ジャーナリスト/福島で働く臨床疫学系医
第5回：2024年3月
先端医療開発部　データセンター・クリニカルデータマネージメント女性室長/小児科医師 など
第6回：2024年6月
日本の医師免許を用いて海外での臨床医/スタートアップ企業のCEO
第7回：2025年1月
厚生労働省・企業で働く医師/子育てと外科医・腫瘍内科医の両立
第8回：2025年3月
外科医・レギュレーションからプロマネへ/厚生労働局健康局から外科医へ
第9回：2025年12月
小児外科医から漢方医へ/未来を育て、今を生きる
第10回：2026年3月
ふつうの専攻医から海外大学院へ/「こうあるべき」から自由になる

今後の計画

- 今後も、「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」では、医学部卒業後に多様な分野で活躍している卒業生（女性教員を含む）を招いた学生・若手医師向けキャリアセミナーを定期的に開催していく。

改善状況を示す根拠資料

資料18　学生・若手医師向けネットワークキャリアセミナー ポスター(第1回～第10回)

2.2 科学的方法

基本的水準：部分的適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

- 医学研究を重視するという理念のもと、基礎セミナー、基礎医学セミナーといった科学的手法の原理、医学研究の手法を学ぶ科目が設定されている。
- 冊子資料「EBM学習パッケージ」が作成され、それを用いてEBMの基本的な教育が行われている。

改善のための助言

- 臨床実習の現場でEBMの教育を確実に実践すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 2021 年 4 月に臨床研究教育学講座が、「①出口戦略まで見据えることができる臨床研究人材の育成」「②先端医療開発部との連携のもとでの各種臨床研究の支援」「③専門性・部局・立場を超えた臨床研究共創の場の形成」を主なミッションとして開講した。臨床研究に関するリテラシーの向上を目指した教育（学部生、大学院生、研究者対象）の他、伴走型支援を中心とした各種臨床研究支援、リアルワールドデータ（RWD）研究資源の提供や支援を行っている。
- 3 年生の基礎医学セミナー配属前には、一般社団法人公正研究推進協会（APRIN）が提供する研究倫理教育 e-learning（eAPRIN）の受講を義務づけている。
- 4 年生の Problem-based Learning(PBL)では、適切なディスカッションを勧める上で重要な文献検索の方法や引用の仕方について教育する場を設けるとともに、PBL のグループワークでは、文献の適切な引用についても評価基準としている。2026 年度からは、文献検索に生成 AI を使用する場合のルールも作成し学生に周知するとともに運用を開始した。このルールでは、生成 AI の使用を一律に禁止せず、卒業後も活用できる能力の育成を目的として、検証を伴う適切な使用を促す方針をとっている。2025 年度に、チューターから学生の投稿に生成 AI が使われているとの指摘があったことを受けて、PBL チュートリアル実施委員会が「PBL チュートリアルにおける生成 AI の使用について（学生向け）」を作成し、2025 年 9 月 10 日の同委員会および同年 9 月 24 日の学部教育委員会で承認された。この文書では、生成 AI の定義と、事実と異なる情報やバイアスを含む情報を生成しうる特性を文献とともに示したうえで、使用した生成 AI の名称、具体的な使用方法および得られた情報の検証方法を記載すること、生成 AI 自体は参考文献とせず適切な文献を併記すること、生成された内容をそのまま用いずに自分の言葉で要約して症例に即した考察を加えること、使用の不記載は評価に影響しうること、個人情報や機密情報を入力しないことを求めており、実際のやり取りに基づく有用な使用例と不適切な使用例をそれぞれ 2 例添えている。年度途中での運用変更を避けるため周知は 2026 年度からとし、同年度は本文書を学生向け PBL 説明会（2026 年 4 月 16 日）で説明するとともにチューター用マニュアルに収載し、学習課題を Teams に投稿する際に、出典に加えて生成 AI の使用の有無、使用した AI ツール、使用内容および検証方法を記載する「出典及び生成 AI 使用報告」テンプレートの使用を求めている。あわせて評価表に「生成 AI 使用の開示」の項目を設け、不適切な開示があった場合にチューターが指摘し、コメントを学生にフィードバックする運用としている（2026 年度は試験的導入のため点数化は行わず、評価の参考としている）。これらは本学の生成 AI の活用に関する方針に沿って、PBL の学習過程に即して具体化したものである。
- 2024 年に引き続き 2025 年度も、文科省公募事業「スペシャリストの継続的育成によるサステナブルな臨床教育・研究力の強化事業」の一環として、各診療科に対しそれぞれの診療科の文脈を考慮して行う支援対話型 FD である Workplace-based FD を開催した。同 FD では実習内容に関する調査も実施した。その結果、呼吸器外科などで学生も抄読会に参加していること、糖尿病・内分泌内科、老年内科、小児科、脳神経内科など多くの診療科で文献検索による考察も含めた症例発表の場が与えられていることが確認された。
- 2026 年 4 月から、学部生が継続して研究活動に取り組み、修了論文を提出し、最終発表・口頭試問に合格した場合、卒業時に「Honours Student」として研究歴を証明する証書を授与する新制度「Honours Student Program（HSP）」を開始した。

今後の計画

- 2026 年度も臨床研究教育学講座では、従来通り、臨床研究教育、臨床研究支援活動を実践していく。さらに、臨床研究に早期から従事することを主目的とし、医学部生を Student Assistant（SA）、大学院生を Teaching Assistant（TA）として雇用するジュニアスペシャリスト養成事業を推進する。
- 引き続き、臨床実習の現場でのEBM教育を拡充していく予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料 19　2024 年度冬 臨床研究教育セミナー 告知ポスター
資料 20　2024 年度 臨床研究教育学講座シンポジウムポスター
資料 21　Workplace-based FD
資料82　Honours Student Program(HSP)科目概要・実施要項
資料83　2026年度PBL評価表
資料84　PBLチューター用マニュアル(生成AI関連)
資料85　2026年度PBL出典及び生成AI使用報告テンプレート

質的向上のための水準：適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 基礎医学セミナーにおいて、約6か月間の研究室配属が行われていることは評価できる。

改善のための示唆

· なし

関連する教育活動、改善状況

- カリキュラム評価（IR）委員会では、基礎医学セミナー（半年間の基礎講座配属期間）の一層の充実と課題の早期抽出・対応のため、2023年度より基礎医学セミナー実施委員会と共同で基礎医学セミナーアンケートを開始した。このアンケートは、半年間の期間中2回（中間・終了時）学生と担当教員に調査を実施しており、学生に対しては、サポート体制・研究に費やす時間・行った研究、今後やりたい研究などについて調査するとともに、教員に対しては、上記の学生の調査結果も使用してセミナーの負担度や実習中のトラブル対応などについて積極的に意見を求めた。アンケートの結果は、基礎医学セミナー実施委員会に提供され、同委員会より各講座へのフィードバックも必要に応じて実施されている。

今後の計画

- 特記事項なし

改善状況を示す根拠資料

資料22　2025年度基礎医学セミナー中間時・終了時アンケート

2.3　基礎医学

基本的水準：適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 基礎医学分野の要素が広くカリキュラムに取り入れられている。

改善のための助言

· 臨床医学を修得し応用するのに必要となる基本的な科学的知見、概念と手法を理解するのに役立つという観点から、カリキュラム全体の中での基礎医学教育のあり方を明確にすべきである。

関連する教育活動、改善状況

- カリキュラム評価（IR）委員会では、基礎医学セミナー（半年間の基礎講座配属期間）の一層の充実と課題の早期抽出・対応のため、2023年度より基礎医学セミナー実施委員会と共同で基礎医学セミナーアンケートを開始した。このアンケートは、半年間の期間中2回（中間・終了時）学生と担当教員に調査を実施しており、学生に対しては、サポート体制・研究に費やす時間・行った研究、今後やりたい研究などについて調査するとともに、教員に対しては、上記の学生の調査結果も使用してセミナーの負担度や実習中のトラブル対応などについて積極的に意見を求めた。アンケートの結果は、基礎医学セミナー実施委員会に提供され、同委員会より各講座へのフィードバックも必要に応じて実施されている。
- 総合医学教育センターが中心となって、名古屋大学医学部の教員に向けて、「東海国立大学機構名古屋大学医学部FD」と称するFDを2021年度より開始している（詳細は5.2参照）。同FDでは2024年9月に「研究医の育成」をテーマとし、基礎医学研究も含めた研究者の育成に向けた学部教育レベルでの教育の充実についても議論が行われた。
- 2025年1月からは、より幅広い教員が気軽に参加しやすいよう、実践的な内容をテーマとした月一回開催の医学教育基礎FD（Faculty Development of Doctors' Education and Learning for Advancement： DELA-FD)も開始している（詳細は5.2参照）。同FDでは「講義法」「フィードバック」「学生を巻き込む授業の作り方」「高品質な試験問題の作り方」など基礎医学も含めた教授方法の指導もテーマとしており、基礎系教員も参加している。

今後の計画

- 2026年度以降の新カリキュラム実施にあたっても、アンケート調査など、広く教員と学生の意見を求める機会を確保し、改善を図っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料22　2025年度基礎医学セミナー中間時・終了時アンケート

質的向上のための水準：適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 医療におけるAIの教育が行われている。

改善のための示唆

· 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要となると予測されることにつ

いて、カリキュラム全体として明確にすることが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 2024年度からの新カリキュラムでは「医療データ科学」を新設した。この科目は3年次「医療データ科学Ⅰ」と4年次「医療データ科学Ⅱ」に分けて開講され、医学・医療分野で急速に蓄積されつつある多種多様なデータを適切に分析しその結果を正しく解析することで、新たな解決策の提案や意思決定を行う能力の育成を目的としている。初年度の授業評価の結果も踏まえて、内容の見直しを行った上で継続していく。

今後の計画

- 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要となると予測される事項も考慮し、データサイエンス教育の一層の充実化を図っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料23　2026年度医療データ科学Ⅰ・Ⅱ(3・4年次)の講義について

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準：部分的適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 老年科において、高齢者医療や福祉に関して社会医学を含む教育が行われている。

改善のための助言

· 行動科学、医療倫理学、医療法学の体系的なカリキュラムを定め、確実に実践すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 2022年度～2025年度以降の新カリキュラム作成にあたっては、カリキュラム全体で一貫した社会医学・行動科学の学習ができるよう、カリキュラムの見直しを行い、行動科学や社会医学の充実化を図った。2023年度から新設された「行動科学・社会科学」の科目は、1年生～5年生にかけて学年縦断的に実施しており、2023年度は1年生、2年生を対象に講義を実施した（1年生：「なぜ医学生・医師が行動科学・社会科学を学ぶのか？」など、2年生：「健康と貧困」、「ジェンダーと医療」、「気候変動と医療」など）。2024年度からは3年生を対象に、「医療人類学からの問いかけ」「行動科学と心理学」「哲学と医療」を講義している。
- 本学は2022年度に文部科学省によるポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業に採択され、名古屋大学と岐阜大学と共同で「医療人類学とバーチャル教育を活用した屋根瓦式地域医療教育（NOVI+A）」を開始している。具体的には医療人類学、バーチャル教育、屋根瓦式地域医療教育をキーワードとして、地域枠医学生向けの特別プログラム、及び全医学生を対象とした地域医療教育を企画し、2023年度から運用を開始した。同事業では以下の活動を行っている。

2025 年度は

・医療人類学と特定の診療科のトピックを結びつけた授業の実施

医学部医学科の1年から4年生までに対して、人類学及びそれと関連する社会科学・人文学の講義を実施した。加えて、教養科目の枠組みで、医療人類学の講義型の授業と、フィールドワーク実習を伴う授業(秋学期の授業1つ、超学部セミナー1つ)を実施した。加えて、3年生において行われる基礎医学セミナーにおいて、3名の学生に行動科学・社会科学の研究と関連が深い質的研究・医学教育研究を行う機会を提供した。

医療人類学と特定の診療科のトピックを結びつけたオンデマンド教材を作成した。バーチャル教育については、医学生・看護学生・作業療法学生・社会福祉学科学生・薬学生の多職種連携教育において、模擬訪問診療における多学部学生の視点をリアルタイムで記録し、そこから視座の違いを学ぶ授業を実施した。

・地域枠医学生向けの診療所実習の整備と開始

昨年度に引き続き、プライマリ・ケア/総合診療にまつわる診療所実習について4週間の実習を行った。2箇所の診療所、3箇所の地域中核病院において4週間の実習を行った。実習選択前に昨年度経験した6年生が5年生に経験と振り返りを話す「座談会」を設けた。実習前には、複数の医療機関と地域枠学生が合同で話すWebオリエンテーションを行った。実習期間中には、医学生と現地指導医が時間を合わせてSignificant Event Analysisのフォーマットを参考に経験を共有するオンライン合同振り返りを行った。

・地域医療教育に携わる教員のための FD コースの運営

2025年6月19日（木）16：30-17：30に、上記実習先の5医療機関の指導医向けに、令和5年度文部科学省質の高い臨床教育・研究の確保事業「シミュレーション教育の充実による持続的な診療参加型臨床実習強化プログラム（SS2)」に携わっている当学の馬場泰輔病院助教から、診療参加型実習における診察・手技教育をテーマに講演を行い、各々の医療機関における手技教育について討論を行った。

・第4回ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業 全国フォーラムの主幹校

2026年1月9日に、名古屋大学にて「越境から考える地域医療人材養成」というテーマにて、事業に関わる行政関係者、全ての拠点の大学関係者、地域の医療機関、学生が集まったフォーラムを開催した。当学からは医療人類学に基づいたフィールドワークの二種類の授業について事業報告を行った。

・地域医療に関わる人材へ事業活動内容及び実績の広報

本事業の内容やカリキュラム紹介、各種通知および活動報告を行った。

・濃尾＋A事業で行っている授業内容のアウトプット

上述した授業の取り組みおよび医療人類学に基づいたフィールドワーク実習については、千葉大学のポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業における学外医療機関での指導医向けの講演合同で開催したシンポジウムで紹介を行った。



今後の計画

- 新カリキュラムにおいて、行動科学、医療倫理学、医療法学の体系的なカリキュラムを確実に実施していく。
- 2026年度の行動科学・社会科学は、1年～5年生を対象とした以下の講義を実施予定である。

  1 年生：なぜ医学生・医師が行動科学・社会科学を学ぶのか
  　　医学教育者というキャリア/健康と医療
  2 年生：健康と貧困/性差と医療/気候変動と医療
  3 年生：医療人類学からの問いかけ/行動科学と心理学/哲学と医療
  4 年生：宗教と医療/医療・医学の歴史・医療者の Well-being と Burnout
  5 年生：医師はなぜ患者のために働くのか？/臨床実習におけるエスノグラフィックな記述
- 2025年度に引き続き、医療人類学と特定の診療科のトピックを結びつけたオンデマンド教材を複数作成予定である。
- 3年生に行われる基礎医学セミナーにおいて、総合医学教育学講座・地域医療教育学講座が合同で、地域枠学生に、行動科学・社会科学と関連する研究方法や研究テーマを行う機会を設ける。
- 4年生に行われる必修授業「地域医療学」において、社会科学の理論・研究を臨床に取り入れた具体例として、家庭医療における臨床アプローチの授業を行う。

改善状況を示す根拠資料

資料08　2025年度医療人類学とバーチャル教育を活用した屋根瓦式地域医療教育(NOVI+A)報告書
資料24　2026年度行動科学・社会科学の時間割と授業説明
資料 25 第 4 回全国フォーラム報告書

質的向上のための水準：部分的適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）
· 医療制度の変化に関する教育が行われている。
改善のための示唆
· 行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学に関して、カリキュラムを調整および修正する体制を整備することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況
- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画
- 行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学も含めたカリキュラムに関しては、カリキュラム評価（IR）委員会による継続的な授業評価および学生・教員を対象としたカリキュラムアンケートを実施し、評価していくとともに、学習者や教員の需要を考慮した調整を行っていく。また、コアカリ改訂など、社会からの要請も考慮したカリキュラムの見直しを定期的に行っていく。

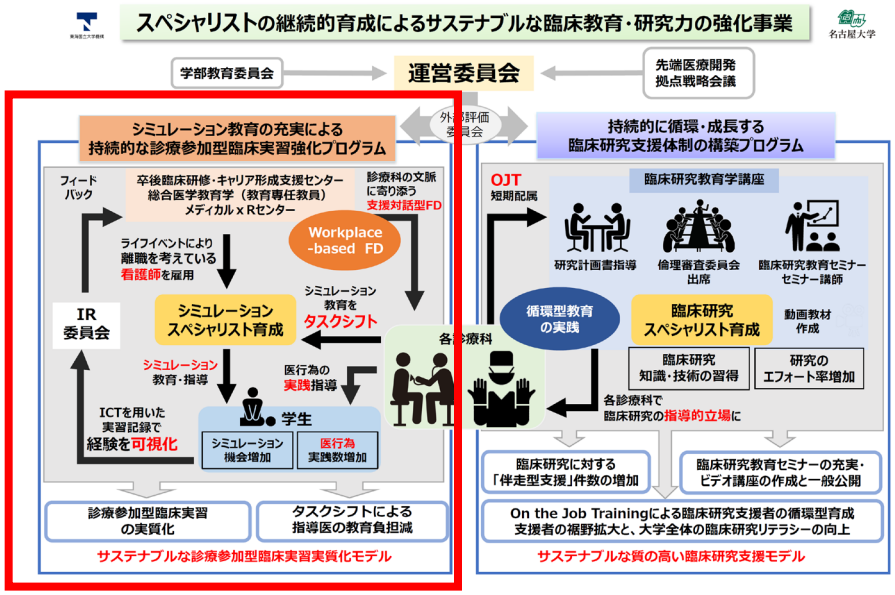
改善状況を示す根拠資料
- 特になし

2.5 臨床医学と技能

基本的水準：部分的適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）
特記すべき良い点（特色）
· 「臨床実習Ⅱ」の教育期間を2020年度から延長し、診療参加型臨床実習の期間を増やしている。
改善のための助言
· 臨床実習に関して、重要な診療科で学修するための十分な時間を全員に確保すべきである。
· 学生が実習において、チームの一員としてより積極的に診療に参加できる実習を充実させるべきである。
· 総括的評価に加えて、形成的評価を充実し、診療参加型臨床実習の質を向上させるべきである。

関連する教育活動、改善状況
- 本学は 2023 年度文科省公募事業「質の高い臨床教育・研究の確保事業」に採択され、2023 年度～2025 年度にかけて「スペシャリストの継続的育成によるサステナブルな臨床教育・研究力の強化事業」を実施した。同事業では、シミュレーション教育の充実による持続的な診療参加型臨床実習強化プログラムを通じて、臨床実習中の基本的臨床技能実習の拡充をめざした。



本事業の具体的取り組みを以下に示す。

- 2024 年より、現行の 4 年生の基本的臨床技能実習に加えて、臨床実習準備教育の一環として基本的臨床技能実習Ⅱを開始し、シミュレーション実習（主に皮下・皮内・筋肉注射、尿検査、浣腸、気管内吸引、口腔・鼻腔吸引、吸入など）を導入した。同実習では、医療連携推進室所属の看護師も指導者として加わり、現場目線での実習の実現や大学教員医師の負担軽減に貢献している。
- 名古屋大学では従来からシミュレーション教育のための施設として xR センターが存在するが、同センターは高度な技術習得訓練も可能な施設である一方で、学生のみでは利用できない制限があった。そこで本事業では学生が、基本的な医行為のシミュレーター等を用いた練習を自主的に実施できるシミュレーション教育スペース（スキルスラボ）を 2024 年度新たに整備した。同施設では、カードキー等による利用状況管理を実施しながら、シミュレーション資材の学生の活用を可能にした。
- 2024年度より総合医学教育センターの教育専任の教員が、各診療科に対しそれぞれの診療科の文脈を考慮して行う支援対話型FDであるWorkplace-based FDを開催し、2025年度も11月～2月に実施した。同FDでは実際に学生をどのように診療に参加させるか、どんな医行為が可能かなどについて意見交換が行われた。また実習内容に関する具体的な改善点を教育専門家の立場から助言した。活動を通じて全診療科の実習内容を把握するとともに、Good Practiceについては2026年1月にFDを開催し他の診療科にも共有した。
- 2023年度より6年生を対象とした臨床実習Ⅱにおいて電子ポートフォリオシステムを試験的に開始した。この電子ポートフォリオは診療経験記録を実習終了後に学生が入力することで、実習先診療科の担当教員と共有できるシステムである。2025年1月からはこのシステムを全診療科に導入し、学生の経験を記録し、指導医がフィードバックできる体制が整った。またこの電子ポートフォリオシステムと人工知能(AI)の連携についてもトライアルを開始している。
- 実習中の学生とのリアルタイムでのコミュニケーションを促進する目的

で、2025年1月からは臨床実習での連絡ツールとして Microsoft Teamsを導入した。同アプリを用いた通話やチャット等により、緊急対応時に学生を呼び出したり、学生に対するフィードバックを行ったりすることが可能になった。

- カリキュラム評価（IR）委員会と合同で2023年度より学生及び、診療科教員を対象に臨床実習において学生が経験する医行為の状況に関する調査を実施した。2025年度も同様の調査を実施し、2年間の取り組みを経て、医行為の経験数、頻度などが増加したことが確認された。

  学生（5年生・6年生）への調査

  門田レポートにて定める 74 の医療行為について実施・シミュレーション・介助・見学等の経験を調査

  診療科教員への調査

  門田レポートにて定める 74 の医療行為について実際の患者さんに対してまたはシミュレーションでの実施の有無を調査
- 2025年3月、2026年1月には「臨床実習Good Practice報告会」として診療参加型臨床実習をテーマとしたFDを開始し、臨床実習のGood Practiceの事例紹介などが行われた。また学生から診療への参加度に関して特に評価の高かった診療科を対象にBest臨床実習賞として表彰を実施した。
- 改正医師法の下での学生の適切な医行為実施のため、学生の医行為に関する患者からの個別同意取得状況に関する調査を診療科を対象に 2025 年 9 月に実施した。個別同意の取得状況については、一部の診療科では学生が問診や診察を担当する際に「指導医が口頭で説明し、学生の関与について同意を得る」という運用が行われていた。書面を用いての同意取得や、侵襲の高い医行為を実施する際の個別同意を実施していると回答した診療科は認めなかった。

- 初年次からの臨床現場での実習（早期体験実習）、臨床実習Ⅱでの海外協定校への派遣及び準備教育の実施などに加えて、①4年次の臨床教育における「接遇教育」（医療面接とは別枠の社会人としての態度、礼節教育）、②地域医療教育学講座によるシネメディケーション実習なども導入し、従来の教育に欠けていた医療人としての「望ましい態度」、「高いコミュニケーション能力」、「基本的臨床技能」が得られる教育に努めている。
- 令和4年度医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に伴い、本学では内科6週間、外科4週間、小児科3週間、産婦人科3週間、精神科2週間、総合診療（プライマリ・ケアおよび老年内科を含む）4週間の実習期間を確保するとともに、全ての基本診療科や歯科口腔外科での臨床実習の機会を確保している。また5年生後半から6年生にかけて実施される臨床実習Ⅱでは各診療科のローテート4週間とし、診療参加を促している。
- 本学の臨床実習の抜本的改革を進めるため、2026年度より臨床実習実施委員会を拡大し、各診療科の若手教員等を大幅に追加した上で、「臨床実習の改変について」の議論を開始している。

今後の計画

- 2023年度から2024年度にかけて実施した各診療科に対する支援対話型のWorkplace-based FDでの議論を踏まえ、その後の各診療科の臨床実習の改善状況を適宜フォローし、引き続き必要な支援を実施していく。
- 2025年度に引き続き2026年度以降もカリキュラム評価（IR）委員会では、学生・

教員に対して臨床実習中の医行為実施状況の調査を行う予定である。

- 拡充した臨床実習実施委員会のもと、診療参加をより推進できる新しい臨床実習に向けた改変を着実に実施していく。

改善状況を示す根拠資料

資料09　文科省 質の高い臨床教育・研究の確保事業「スペシャリストの継続的育成によるサステナブルな臨床教育・研究力の強化事業」2025年度報告書
資料26　2025年度臨床実習(5年生・6年生向け)医行為状況調査
資料27　2025年度臨床実習(教員向け)医行為状況調査
資料28　2025年度スキルスラボ利用実績
資料29　2026年度第1回臨床実習実施委員会議事メモ

質的向上のための水準：部分的適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 1年次の医学入門の中で、看護実習、介護実習、医師シャドーイング、医療現場体験実習などが行われている。

改善のための示唆

· 1年次だけでなく、全ての学生が2年次から臨床実習開始まで、徐々に患者診療へ参画する機会を確実に確保することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ
- 2024年度より開始された各診療科に対し行う支援対話型のWorkplace-based FDでは、教育プログラムの進行に合わせた診療参加の強化として、5年生後半から6年生にかけて実施される臨床実習Ⅱではより診療参加の程度を強化するよう各講座に働きかけている。

今後の計画

- 臨床医学・臨床実習も含めたカリキュラムに関しては、カリキュラム評価（IR）委員会による継続的な授業評価および学生・教員を対象としたカリキュラムアンケートを実施し、評価していくとともに、学習者や教員の需要を考慮した調整を行っていく。
- また、コアカリ改訂など、社会からの要請も考慮したカリキュラムの見直しを定期的に行っていく。
- 拡充した臨床実習実施委員会のもと、診療参加をより推進できる新しい臨床実習に向けた改変を着実に実施していく。また臨床実習前の期間も含めた、医療・介護現場へのEarly Exposureの一層の充実についても同委員会で検討を進めていく。

改善状況を示す根拠資料

前項「基本的水準」と同じ

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準：部分的適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 教育範囲、教育内容、実施日程などがシラバスに明示されている。

改善のための助言

· 6年間の医学教育プログラムにおいて、全学教育科目、基礎医学、行動科学、社会医学および臨床医学を適切な関連と配分で構成すべきである。

· 6年間を通じて、学修成果を確実に達成できるように、教育範囲、教育内容、教育科目の実施順序を明示すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 令和4年度医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に合わせて本学では2022年度～2025年度にかけてカリキュラム改変を実施しており、社会医学の拡充、臨床医学等の大幅な再編を実施した。
- シラバスにはコースツリーを掲載し、6年間の各カリキュラムと10項目のディプロマ・ポリシーとの関連を示すことで、学生がカリキュラム全体の構造と学修目標との関連を理解できるよう提示している。
- 2024年度から、全学教育科目について、履修基準の緩和や履修機会拡大の措置を講じている。

【措置の内容】

① 教養科目の各修得科目上限（「4単位を限度」など）がおおむね撤廃された。これにより、学生の興味に応じた履修が可能となった。

② Ⅴ期及びⅦ期に教養科目の十分な開講数が期待できないため、履修基準「Ⅴ期およびⅦ期において、各2単位以上を取得すること。」（必須）を、「Ⅴ期及びⅦ期において、各2単位以上の取得を推奨する。」（任意）に改訂した。

③ Ⅴ期・Ⅶ期の履修機会拡大のため、医学科生向け教養科目（現代教養科目、超学部セミナー、国際理解科目のいずれか1科目）を鶴舞キャンパスにおいて遠隔授業で開講することとした。

今後の計画

- 6年間を通じた学修成果の確実な達成を考慮した期間や実施順序等を検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料30　2024年度全学教育科目について

質的向上のための水準：部分的適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 4年次に臨床医学の水平的統合を目指した9講義から成る「臓器別臨床講義」が設定されている。

改善のための示唆

・　カリキュラムの水平的統合、垂直的統合を確実に実施することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ
- 名古屋大学と岐阜大学の医学専門科目の連携については、両大学の同様の科目を担当する教員同士が、それぞれの講義・実習内容等を共有し、意見交換する場を設けている。
  実際の岐阜大学との教育連携の一例として、2022年度からは1年生を対象として「医学入門」の一部の講義で岐阜大学との連携授業を実施しており、2023年・2024年度も継続している。
- 2022年度以降の新カリキュラムでは、行動科学・社会科学に関する科目を以下のように学年を追って配置し、経年的に、総論的な内容から、臨床に即した内容も含む内容へと学んで行けるようにしている。
  1年生：なぜ医学生・医師が行動科学・社会科学を学ぶのか
  　　医学教育者というキャリア/健康と医療
  2年生：健康と貧困/性差と医療/気候変動と医療
  3年生：医療人類学からの問いかけ/行動科学と心理学/哲学と医療
  4年生：宗教と医療/医療・医学の歴史・医療者のWell-beingとBurnout

今後の計画

- 新カリキュラムへの変更に際しては、学生や教員から広く意見を収集しニーズを踏まえるとともに、カリキュラムの水平的統合、垂直的統合を図ることも検討していく。

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

2.7 教育プログラム管理

基本的水準：適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

・　カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ、医学部医学科教育委員会が設置され、構成委員に教員と学生の代表が含まれている。

改善のための助言

・　なし

関連する教育活動、改善状況

- 医学部医学科教育委員会では、学内教員に加えて、外部の教育専門家、学生委員を構成員に加えている。
- 2022年度～2025年度にかけてのカリキュラム改訂では、新カリキュラム作成のための公開検討会を開催し、学生や一般教育からの意見を広く集めながら、医学部医学科教育委員会にてカリキュラム改訂の具体的内容について議論した。
- 医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会の学生委員を別に専任

するなど、両者の独立性を高めている。
- 医学部医学科教育委員会では、カリキュラム評価（IR）委員会からの提言を受けてカリキュラムや教育環境の改善に取り組んでおり、実際の教育プログラム改善活動を通じて両者の役割分担がより明確になってきている。

今後の計画
- 引き続き、実質的な活動を通じて、医学部医学科教育委員会の担う役割を明確にしていく。

改善状況を示す根拠資料
資料12　2025年度医学部医学科教育委員会名簿
資料13　2025年度医学部カリキュラム評価（IR）委員会名簿

質的向上のための水準：部分的適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）
特記すべき良い点（特色）
· 教育カリキュラムの改善に関して、カリキュラム評価（IR）委員会などとの連携体制が組織的に示されている。
改善のための示唆
· 医学部医学科教育委員会を中心とした関連組織が、有機的かつ持続的に連携して活動することが望まれる。
· 教育カリキュラムの立案と実施に責任を持つ委員会に、卒業生、臨床実習に関わる他の医療専門職、一般市民などの幅広い教育関係者を含めることが望まれる。

関連する教育活動、改善状況
- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画
- 医学部医学科教育委員会では、審議事項に応じて、関連する外部の教育専門家や一般市民などの幅広い関係者に参加いただくことを今後検討していく。

改善状況を示す根拠資料
- 前項「基本的水準」と同じ

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準：適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）
特記すべき良い点（特色）
· 総合医学教育センターが卒後臨床研修・キャリア形成支援センターと連携して卒前教育と卒後の教育・臨床実践を支援している。
· 「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」が卒前教育と卒後の教育・臨床実践に関与し、組織的に活動している。
改善のための助言

・　保健医療上の問題点を特定し、それに対して必要な学修成果を明らかにして、適切に連携を行うべきである。

関連する教育活動、改善状況

- カリキュラム評価（IR）委員会では2022年度以降、卒業生進路先調査・卒業生調査を定期的に実施している。「卒業生を受け入れていただいた医療機関等へのアンケート調査」では卒業生の進路先医療機関（初期研修先など）に対し、本学の卒業生のディプロマポリシーの達成状況や本学の卒業生の強みや弱みなどについて調査している。また卒業生アンケートでは、卒業生に対しディプロマポリシー達成状況に関する調査や卒業生のキャリアの調査、本学の教育への意見収集を行っている。アンケートの集計結果は医学部医学科教育委員会および医学科会議に資料として提供されている。
- 卒業後の教育・臨床実践や働く環境と学生のつながりを強化するため、「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」では、医学部卒業後に多様な分野で活躍している卒業生を招いた学生・若手医師向けキャリアセミナーを定期的に開催している。2025年度は全2回実施した。講演者には研究や海外留学で活躍している医師に加えて、行政や企業で活躍している卒業生も多数招いている。（詳細は前述2.1参照）

今後の計画

- 卒業生進路先調査・卒業生調査の定期的な実施により、卒業生や卒業生の働く環境からも本学のカリキュラムや学修環境に関する意見、さらには地域や社会の抱える保健医療上の問題に関する情報を収集し、教育プログラムを適切に改良していく。
- コアカリ改訂など、社会からの要請も考慮したカリキュラムの見直しを定期的に行っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料03　2025年度卒業生を受け入れていただいた医療機関等へのアンケート調査
資料04　2025年度卒業生調査(2025年10月実施)

質的向上のための水準：適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

・　「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」を通じて、卒業生が将来働く環境からの情報を得ている。

改善のための示唆

・　基礎研究、公衆衛生、産業保健など、卒業後に選択されることが少ない分野からも、さらに情報収集を行うことが望まれる。
・　一般市民など地域や社会の意見を、さらに取り入れることが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 卒業生進路先調査・卒業生調査の定期的な実施により、卒業生や卒業生の働く環境からも本学のカリキュラムや学修環境に関する意見を得て、教育プログラムを適切に改良していく。卒業生を対象としたアンケートでは、臨床だけでなく研究・公衆衛生・産業保健などの分野に進んだ卒業生も対象とし意見収集を行う。
- コアカリ改訂など、社会からの要請も考慮したカリキュラムの見直しを定期的に行っていく。

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

3. 学生の評価

領域3-学生の評価における「改善のための助言」を受け、目標とする学修成果を学生が達成していることを保証する評価を確立することが今後の課題といえる。

3.1 評価方法

基本的水準：部分的適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

- 過去の試験問題等を収集し、医学教育専門家による分析が開始されている。

改善のための助言

- より多くの科目で、知識だけでなく、技能および態度について評価方法や基準を明示し、確実に実施すべきである。
- 臨床実習中の疾患や病態の経験についての評価に加え、MiniCEXなどWorkplace-based Assessmentによる態度・技能評価も確実に実施すべきである。
- 教職員の関係者が履修する科目の評価に際しては、利益相反に十分な配慮を行うべきである。

関連する教育活動、改善状況

- カリキュラム評価（IR）委員会では、学生の評価に関わる教学データの分析を通じて評価や試験の信頼性や妥当性の検証を実施している。
- 2022年度からは試験問題の公開を行い、履修認定および試験結果は本学の学習支援システムであるTACT（TOKAI Academic Combination Tools）の成績簿機能を使用した開示に変更し、2024年度は大部分の講座が対応できるようになった。これにより従来以上に詳細な試験結果のフィードバックが学生に対し行われている。一部の診療科では模範回答及び解説の公開も実施している。
- 技能評価に関しては、2022年度より臨床実習後OSCEの一部で、大学独自課題を実施し評価している。2025年度は縫合の手技を大学独自課題とした。また臨床実習前OSCEについては、公的化を踏まえて、本学でもOSCEの課題数を8課題に拡充し、評価としての信頼性を高めている。
- 2024年1月より6年生を対象とした臨床実習Ⅱにおいて電子ポートフォリオシステムの運用を試験的に開始し、2025年1月からは全診療科を対象に本格的な運用を開始した。この電子ポートフォリオは診療経験記録を実習終了後に学生が入力することで、実習先診療科の担当教員と共有できるシステムである。担当教員からは学生に対する形成的評価が実施される。電子ポートフォリオシステムとAIの連携についてのトライアルも同時に開始している。
- 総合医学教育センターが中心となって、名古屋大学医学部の教員に向けて、「東海国立大学機構名古屋大学医学部 FD」と称する FD を 2021 年度より開始している。学生も参加し、教員・学生がグループワークを交えて活発な討議・意見交換が行われている（詳細は 5.2 参照）。これまでに「試験のあり方」に関してや、「診療

参加型臨床実習の評価」についても取り上げている。また、2025 年 1 月からは、より幅広い教員が気軽に参加しやすいよう、実践的な内容をテーマとした月一回開催の医学教育基礎 FD (Faculty Development of Doctors' Education and Learning for Advancement： DELA-FD)も開始している（詳細は 5.2 参照)。2025 年 6 月には「高品質な試験問題の作り方」をテーマとして取り上げ、本学試験の信頼性・妥当性の強化をめざした。

- 2024年度より学生に対する授業評価アンケートの設問に、「試験の内容・出題範囲・難易度などはシラバスに記載された到達目標に対して適切でしたか？」「試験についての感想・改善点など何でも記載してください（試験の時期・試験前の学びの機会・試験後のフィードバックについてなど）」との設問を設けた。その結果試験に関し多数の意見が学生から寄せられ、各講座にフィードバックしている。特に学生からの意見が多数寄せられた講座に対しては、総合医学教育センター教員が訪問し、一緒に信頼性・妥当性の高い試験のあり方を考えるFDも実施している。
- 上記アンケートの結果、特に小テストも含めた形成的評価の実施、個々の試験結果の開示方法などで学生から学習を進めやすいと評価の高かった口腔外科については、試験及び評価方法のGood practiceとして、他の講座に広く共有した。

今後の計画

- 試験の実施方法などに関する教員用の申し合わせ事項等を整備し周知することも検討していく。
- 臨床実習における電子ポートフォリオシステムを本格的に運用し、形成的評価を強化していく。

改善状況を示す根拠資料

資料31　2025年度学生向け授業評価アンケート(一部抜粋)
資料32　2025年臨床実習Ⅱにおける電子ポートフォリオシステムの導入についての依頼文
資料33　試験等のフィードバックに関するGood practice(歯科口腔外科)

質的向上のための水準：部分的適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 「アンプロフェッショナルな行動・態度の評価」を始めている。

改善のための示唆

· 全ての評価において信頼性、妥当性を検証し、明示することが望まれる。
· 計画している電子ポートフォリオによる学びの可視化や臨床実習におけるMiniCEX、360度評価などの活用を推進することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 臨床実習における電子ポートフォリオシステムを本格的に運用し、形成的評価を強化していく。

- カリキュラム評価（IR）委員会では、試験成績など教学データの分析を引き続き行っていく。その中では、各科目の成績評価の妥当性・信頼性についての検証も実施していく。

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

3.2 評価と学修との関連

基本的水準：部分的適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· なし

改善のための助言

· 目標とする学修成果と教育方法に整合した評価をさらに進めるべきである。
· 目標とする学修成果を学生が達成していることを保証する評価を確立すべきである。
· 形成的評価を積極的に取り入れ、学生の学修を促進するとともに、学修の進度を判定できる評価を行うべきである。

関連する教育活動、改善状況

- カリキュラム評価（IR）委員会では、ディプロマポリシーで定める学修成果の内容が達成されているか検証するために、学生に対するディプロマポリシー達成状況に関する自己評価を2021年度より開始しており、2025年度も各学年に対し年度末に実施している。
- 2022年度からは試験問題の公開を行い、履修認定および試験結果は本学の学習支援システムであるTACTの成績簿機能を使用した開示に変更し、2024年度は大部分の講座が対応できるようになった。これにより従来以上に詳細な試験結果のフィードバックが学生に対し行われている。一部の診療科では模範回答及び解説の公開も実施している。
- 特に小テストも含めた形成的評価の実施、個々の試験結果の開示方法などで学生から学習を進めやすいと評価の高かった口腔外科については、試験及び評価方法のGood practiceとして、他の講座に広く共有した。
- 2024年1月より6年生を対象とした臨床実習Ⅱにおいて電子ポートフォリオシステムの運用を試験的に開始し、2025年1月からは全診療科を対象に本格的な運用を開始した。この電子ポートフォリオは診療経験記録を実習終了後に学生が入力することで、実習先診療科の担当教員と共有できるシステムである。担当教員からは学生に対する形成的評価が実施される。電子ポートフォリオシステムとAIの連携についてのトライアルも同時に開始している。
- 実習中の学生とのリアルタイムでのコミュニケーションを促進する目的で、2025年1月からは臨床実習での連絡ツールとしてMicrosoft Teamsを導入した。同アプリを用いた通話やチャット等により、緊急対応時に学生を呼び出したり、学生に対するフィードバックを行ったりすることが可能になった。

今後の計画

- 臨床実習の電子ポートフォリオシステムを全診療科に導入し、実習事項・患者情報・学んだことなどを学生が記録できるシステムを目指す。また、AIを使って学生が入力した経験記録から項目を抜き出し経験記録の集計ができるようにする予定である。
- カリキュラム評価（IR）委員会では、引き続き試験成績など教学データの分析を行っていく。その中では、各科目の成績評価の妥当性・信頼性についての検証も実施していく。
- カリキュラム評価（IR）委員会では、2023年度より各学生が臨床実習で経験した医行為に関する調査を実施している。今後は同調査の結果を学生の学修目標達成程度の評価にも紐づけていくことを検討していく。
- 臨床実習では、病院機能評価の一環として、実習生が関わった患者を対象とする患者満足度調査を実施している。今後は同調査の結果を学生個人と紐づけ、患者も評価者とした360度評価に用いることを検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料01　2025年度学修成果(ディプロマポリシー)達成調査(2026年3月実施)
資料02　2021年～2025年度(推移)学修成果(ディプロマポリシー)(2026年3月実施)
資料32　2025年臨床実習Ⅱにおける電子ポートフォリオシステムの導入についての依頼文
資料34　臨床実習 Microsoft Teams導入資料

質的向上のための水準：部分的適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 学生と教員が協議し、試験日程が過密にならないように配慮している。

改善のための示唆

· 評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行い、全ての学生の学修を確実にすることが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ
- 学生からあがった要望をもとに、2025年度も医学部医学科教育委員会では委員会内の組織として「試験のあり方WG」を立ち上げ、学生参加のもと、試験日程に関するルール作りにあたっている。試験日程の決定ルールに関しても学生と教員のニーズを踏まえて再検討し、試験日程をあらかじめシラバスに記載した。
- 2024年度より専門科目の再試験の日程調整に関するルールを変更し、医学科生へ通知した。
  個人情報保護の観点から従来の窓口での合否通知を改め、TACTでの合否通知に変更したことにより、再試験の日程を決める方法例を学生・教員と共有した。

  再試験の日程を決める方法例
  ・科目担当から再試験対象者へ TACT やメールで例文 A,B のように通知して日程を決める
  ・学生が代表者を決定し、講座と学生に都合を確認し調整する

今後の計画

- 前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料

資料35　専門科目の再試験の日程調整に関するルールについて(2024年4月通知)

4. 学生

領域4-学生における「改善のための助言・示唆」を受け、使命を策定する委員会と学生生活委員会への学生の実質的な参加が今後の課題といえる。

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準：適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

- 医学部の理念、アドミッションポリシーに基づいて、一般入試（前期日程、地域枠としての後期日程）、研究者志向のある学生を選抜する推薦入試と学士編入学入試など、多様な選抜方法が実施されている。

改善のための助言

- なし

関連する教育活動、改善状況

● 本学の入試の現況について以下に記す。（2026年4月現在）

(1) 学校推薦型選抜

全国の高校から学業成績の優秀な 3 年生を各 1 名に限り推薦を受ける。2008 年度から研究者志向を持つ学生からの出願に期待することを募集要項に記載し、面接試験により、医学研究者への志向性を持ち、将来研究医を目指す能力と資質を有した人物を重視した選抜を行っている（定員 12 名）。

(2) 一般選抜前期日程［一般枠］

二次試験では英語、数学、理科（物理、化学、生物から 2 科目選択）の筆記試験と面接を行う。国語については、2025 年度入学者選抜（2024 年度実施）より国語を廃止している。国語の廃止に当たっては、カリキュラム評価（IR）委員会にて、国語も含めた入試科目得点と入学後の成績や国家試験合否の関連を分析し、それを踏まえた議論を行った上で決定された。

(3) 一般選抜前期日程［地域枠］

2009 年度入学者選抜から緊急医師確保対策に基づく特別枠を設け、愛知県内の地域医療を担う人材を育成することを目的として入試を行っている（定員 5 名）。2022 年度までは、後期入試として実施していたが、2023 年度からは前期入試に組み込まれた（一般枠を第 2 希望として併願可能）。

(4) 一般選抜後期日程

2023 年度入学者選抜（2022 年度実施）から、後期入試を一般枠とする新たな入試制度を導入した。

(5) 学士編入学試験

学士以上の学位を有する者を対象とし、医学研究者への志向性を持つものを選抜する制度として 2005 年度から導入した。2021 年度までは 3 年次編入学として 5 名の定員枠で実施していたが、2022 年度より 2 年次編入学として 4 名の定員枠に変更し、過密なカリキュラムの改善を図った。

2024 年度より、異分野融合を推進し、自然科学への強い関心や医学研究者とし

ての適性を有する学生を選抜することを目的として、編入学試験に「理学部長推薦制度」が導入された。本制度では、名古屋大学理学部の卒業見込み者のうち、理学部による審査により自然科学への強い関心や医学研究者としての適性が認められ、推薦を受けた者については、医学部医学科の学士編入学試験における第１次選考（自然科学・英語）が免除される。

(6) 私費外国人留学生入試

例年、韓国、中国、台湾などから５名前後の出願があり、筆記試験と面接によって試験を行っている。面接官は４名で評価している。ここ数年の合格者は０名で推移しており、入試制度の見直しも検討している。

- 2023年の編入生（2年次編入）から1年生で履修する専門科目も受講可能な時間割にした。
- カリキュラム評価（IR）委員会では、2023年度に入試枠毎の学生の特性と成績結果推移の比較および国家試験合否に関与する因子の検討の分析を行った。また推薦入試枠と編入学枠については、在学中の研究業績や卒業後の進路調査も実施し、研究志向性の高い学生を取る方針がどの程度成果をあげているか評価した。その結果、両入学枠の学生は他の入試枠と比較しても、高い在学中の研究実績や、大学院入学率、研究職への就職率をみとめていることが分かり、両入学枠の選抜方針は一定程度達成できていることが確認された。

  2024年度は入試時の生物選択の有無と入学後の学業成績との関連の検討を行った。その結果、入学試験時の生物選択者は全学生の15%程度であり近年減少傾向にあること、生物選択者は1年次専門科目の生物学基礎の成績(GPA)は、有意に高値であったが、6年次までの通算GPAやCBT-IRTスコアおよび国家試験現役合格率には差を認めなかったことが判明した。その結果をふまえ現時点では入試における生物の必修化などは行わず、現行の入試科目を維持することとなった。
- 名古屋大学では入学試験受験時の合理的配慮として、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、発達障害、精神障害等への一定の配慮を行っている（資料参照）。また名古屋大学ではアビリティー支援センターを設置し、合理的配慮を必要とする学生への支援を行っている。

今後の計画

- 少子高齢化などの社会情勢の中、全学レベルや他の学部での方針を参考にしながら、優秀な医学生を確保するための新しい入試制度を検討することが喫緊の課題となっている。
- カリキュラム評価（IR）委員会では、引き続き卒業生進路先調査・卒業生調査を定期的に実施していく。学務課と連携して、卒業生調査や教学データ分析では地域枠・推薦入試・編入学など入試枠ごとの様々な角度からの分析も実施していく。

改善状況を示す根拠資料

資料36　入試枠毎の学生の特性と成績結果推移の比較および国家試験合否に関与する因子の検討(2023年7月 カリキュラム評価（IR）委員会レポート)

資料37　令和8年度名古屋大学入学試験 受験上の配慮申請書

資料38　令和8年度名古屋大学一般選抜学生募集要項

質的向上のための水準：部分的適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· なし

改善のための示唆

· 開示請求にとどまらず、入学決定の疑義申し立て制度を採用することが期待される。

関連する教育活動、改善状況

- 本学の入試制度の中で、推薦入試と編入学入試は医学研究への志向性をもつ者を選抜することを募集要項でも明示しており、本学理念の「人類に寄与する先端的医学研究と医療技術の創成」およびディプロマポリシーの「新しい医学・医療の開拓」と特に関連している。また地域枠は地域医療への志向性をもつ者を選抜することを募集要項でも明示しており、本学理念の「地域社会、我が国及び世界の医療の向上」およびディプロマポリシーの「東海地域での基盤」と特に関連している。

今後の計画

- 入学試験情報の開示請求を受け付けており、入学決定の疑義申し立てが可能であるが、制度の利用実績も踏まえ、制度の有り方について引き続き検討していく。
- カリキュラム評価（IR）委員会では、卒業生進路先調査・卒業生調査を定期的に実施していく。学務課と連携して、卒業生調査や教学データ分析では地域枠・推薦入試・編入学など入試枠ごとの様々な角度からの分析も実施していく予定である。その結果も踏まえたアドミッションポリシーの見直しも定期的に実施していく。

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

4.2 学生の受け入れ

基本的水準：適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 想定するキャリアプランにあわせて複数の教育プログラムを準備したうえで、異なった選抜様式を採用している。

改善のための助言

· なし

関連する教育活動、改善状況

- 地域枠において真に地域医療への志向性が高い学生を抽出するため、また、入学受験者の質を保ちながら選抜を実施するために、2023年度からは、地域枠を後期入試から前期入試に組み込む形に変更した（一般枠を第2希望として併願可能）。編入学に関しても入学者の質を維持しながら、入学後に過度の負担のないカリキ

ュラムを実現するため、2022年度より2年次編入学として5名→4名の定員枠に変更した。このように入学者の資質や、入学者の学修目標の達成状況を踏まえて、入試枠の適宜見直しを実施している。

- 2026年4月から、学部生が継続して研究活動に取り組み、修了論文を提出し、最終発表・口頭試問に合格した場合、卒業時に「Honours Student」として研究歴を証明する証書を授与する新制度「Honours Student Program（HSP）」を開始した。編入学生は全員が参加とし、研究志向性の高い学生の採用と育成に活用している。

今後の計画

- 特記事項なし

改善状況を示す根拠資料

資料82　Honours Student Program(HSP)科目概要・実施要項

質的向上のための水準：適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 基礎医学研究者の減少に対応した基礎医学研究者の養成プログラムを準備し、受け入れ定員を設けている。

改善のための示唆

· なし

関連する教育活動、改善状況

- 特記事項なし

今後の計画

- 特記事項なし

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準：適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 全学において学生支援センター（現学生支援本部）を設置し、保健管理室、障害学生支援室（現アビリティー支援センター）と連携することで、学生のカウンセリングや支援体制を構築している。

改善のための助言

· 学生を支援するためのプログラムをさらに充実させるべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 学生向けの Learning Management System (LMS)のTACTにて、学生を支援することのできる制度や情報などを学務課より頻繁に発信している。
- 学生の勉学・生活全般についてのアドバイザーとして学生ごとに指導教員を定めている。長期にわたって学生との信頼関係を築き、より密接な指導が行えるように在学6年間を通じて指導教授1名が継続して指導する体制を取っている。学務課学務係と授業担当教員が密接に連携して長期欠席者の早期発見に努め、問題を抱える学生については、医学部医学科教育委員会、学生生活委員会、学生支援本部学生相談センターが連携して指導や支援に当たっている。学生と指導教員との定期面談にあたっては面談記録を作成することが2020年度に決定されている。
- 取得単位が不足するなど教育上の課題を抱える学生に対しては、個別の面談も実施している。
- 障害等を理由に修学上の支援として合理的配慮を希望する学生については、学生支援本部アビリティー支援センターの協力を得て、当該学生、指導教員及び医学部医学科教育委員会で配慮内容等を調整し、本部学生生活委員会の審議を経て、配慮内容が決定される。
- カリキュラム評価（IR）委員会では、毎年年度末に学生向け学修環境調査を定期的に実施し、「教員との交流」「友人関係」「自分の社会生活への不安」についての意見を収集している。
  上記の年度末調査や科目別の授業評価調査なども含め、学生からの注視すべきコメントがあった場合は、関係組織や部門と連携し対応している。
- 2023年度より基礎医学セミナー実施委員会とカリキュラム評価（IR）委員会と共同で学生と教員向けに中間時・終了時と2回アンケートを開始し、以後毎年継続している。基礎医学セミナーは3年次後半の半年間、基礎医学系・社会医学系講座の研究室に各2～4名ずつ所属し、教員の指導の下で研究を行い、最前線の研究活動を体験するセミナーである。そのため通常実施している授業評価アンケートより詳細な調査を実施した。
  学生向けの調査内容は以下の2点である。
  ・担当責任者に相談やサポートを得られる環境かどうか、
  ・研究の拘束時間や負担
  この学生の調査結果を参考資料として教員への調査も実施している。結果は基礎医学セミナー実施委員会を通じて各講座にもフィードバックされている。
  また、アンケートを通じてハラスメントが疑われる事案などが把握された場合には、基礎医学セミナー実施委員会を通じて学生への聞き取りなどのサポートを実施している。
- 4年次後半からの臨床実習についても、各診療科での実習終了ごとにアンケート調査を実施しており、実習中に困っていることや改善してほしいことなどを早期に各診療科にフィードバックできるようにしている。
- キャリアガイダンスの一環として「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」では、医学部卒業後に多様な分野で活躍している卒業生を招いた学生・若手医師向けキャリアセミナーを定期的に開催している。2025年度は全2回実施した。（詳細は前述2.1参照）

今後の計画

- 学生に対し、支援プログラム、保健管理室、学生支援本部アビリティー支援セン

ター、ハラスメント相談センターなどの情報を周知し、適切なカウンセリングと支援を実施していく。
- カリキュラム評価（IR）委員会では、各実施委員会とも協力しての学生向けのアンケートを充実させ、問題点や改善点を早期に発見できる体制にしていく。
- 指導教員との定期面談や教育上の課題を抱えた場合の面談時において、記録に基づいた継続的な支援の実績を今後も積み重ねていく。
- カリキュラム評価（IR）委員会にて今後、成績データを収集・分析し、医師国家試験不合格ハイリスク学生を抽出するためのスコアシステムなどを作成することを検討している。それにより、学生に対して早期に指導的介入を行うことを目指す。

改善状況を示す根拠資料

資料10　2025年度学生向け学修環境調査(2026年2月実施)
資料18　学生・若手医師向けネットワークキャリアセミナー ポスター(第1回～第10回)
資料22　2025年度基礎医学セミナー中間時・終了時アンケート
資料39　2025年度臨床実習Ⅰ・Ⅱアンケート

質的向上のための水準：部分的適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」が、キャリア支援の一部を担っている。

改善のための示唆

· 指導教員によるメンター制度を充実し、教育進度に基づいて学修上のカウンセリングを提供し、実質化することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

4.4　学生の参加

基本的水準：部分的適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会に学生委員が規定され、実際に活動を行っている。

改善のための助言

· 使命を策定する委員会に学生が参加し、適切に議論に加わるべきである。

・　医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会に参加する学生委員が重複しており、両委員会の独立性を担保するために委員の構成を十分に検討すべきである。
・　学生生活委員会に学生が実質的に参加すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会の学生委員を別に選任するなど、両者の独立性を高めている。
- 総合医学教育センターでは、名古屋大学医学部の教員に向けて、「東海国立大学機構名古屋大学医学部FD」と称するFDを2021年度より開始した。学生も参加し、教員・学生がグループワークを交えて活発な討議・質問が行われている。（詳細は5.2参照）

今後の計画

- 医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会における学生委員の積極的な参加と発言を促していく。
- 学生生活委員会は関係する学生との協議を通じて広く学生の問題及び要望の解決に尽力しているが、今後委員会内への学生の参画も検討していく。
- 2026年度以降の新カリキュラムについても、アンケート調査など、広く教員と学生の意見を求める機会を確保し、改善を図っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料12　2025年度医学部医学科教育委員会名簿
資料13　2025年度医学部カリキュラム評価（IR）委員会名簿
資料15　東海国立大学機構名古屋大学医学部FD ポスター(第1回～第10回)
資料16　東海国立大学機構名古屋大学医学部FD 参加人数(第1回～第10回)

質的向上のための水準：適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための示唆

・　なし

関連する教育活動、改善状況

- 学生時代からの屋根瓦式教育体制で上級生が下級生の教育に参加することによって「教えることにより深く学ぶ（Teaching is learning twice）」を実践している。具体的には、4年次の基本的臨床技能実習（医療面接法、身体診察法）の指導に6年次学生が参加している。また同実習の最終コマとして実施される「模擬OSCE」では評価者にもなっている。教員が6年次学生に指導・評価のポイントをあらかじめ教授することにより、6年次学生の更なる学びを促進し、4年次学生の教育にも貢献している。
- カリキュラム評価（IR）委員会では、毎年年度末に学生向け学修環境調査を定期的に実施し、「課外活動」も含めた学修環境についての意見を収集している。得られた課外活動等に関する意見は学生生活委員会へも提供している。

今後の計画

- 特記事項なし

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

5. 教員

領域5-教員における「改善のための助言・示唆」を受け、学外実習病院の指導医への能力開発が今後の課題といえる。

5.1 募集と選抜方針

基本的水準：適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

- 適切にカリキュラムを実施するための教員の募集と選抜を行っている。

改善のための助言

- 女性教員の比率に充分な配慮を心がけるべきである。
- 教員の教育活動のモニタを充分に行うべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 教授選考において、女性教授を増やしていくことについて活発に議論している。2025年度は、各選考過程で第一次候補名簿に必ず女性を1名以上入れることを徹底した。
- 昨年度に続き6名の女性限定教員枠を設けた。うち、2025年度中に退職者が3名出たため、即時欠員募集を行い、2026年4月までに3名を採用した。また、選考に当たっては、研究科執行部メンバーが選考委員となって実際に議論する場を設け、候補者の研究・教育業績や将来性等様々な観点から最終候補者を選定するスキームを確立した。
- 2025年度においても、名古屋大学ジェンダーダイバーシティセンターにおいて、文部科学省「ダイバーシティ研究環境イニシアティブ（女性リーダー育成型）」による女性教授もしくは准教授の採用・昇進者に対し、200万円の研究費を支給するインセンティブが設けられた。2025年度に女性教員の教育・研究活動の発信支援および広報強化を目的として講師以上の女性教員を対象に動画コンテンツ作成支援を実施した。また、2026年度に名古屋大学に所属する女性研究者を対象に学術雑誌または本への投稿論文の英文校閲費用の10万円を助成する枠が設けられる予定である。
- 2024年5月1日時点で6学年（定員660名）の学生に対し436名の教員が配置され、専門教育を行っている。全ての教員の採用において、資格要件の明確化及び採用の公正化を図っている。非常勤講師も活用（2022年度85科目中45科目（53%））し、教育内容の充実や活性化に努めている。臨床実習を担当する市中病院の指導医に対して、審査の上、臨床教授、臨床准教授又は臨床講師の称号を付与し、第一線の臨床現場での教育を行っている。また、基礎医学セミナー及び基礎医学体験実習を担当する学外研究所等の研究者に対して、審査の上、基礎医学教授、基礎医学准教授又は基礎医学講師の称号を付与し、基礎医学教育の充実を図っている。さらに、12の寄附講座に29名の教員が在籍し（2023年5月1日現在）、新規展開領域に関する講義を行うなど、従来の学問体系にとらわれない授業を提供し、多様性を持つ学部教育の実施に貢献している。
- キャリア教育など生涯教育につながるカリキュラムを拡充することを目指し、

「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」では、医学部卒業後に多様な分野で活躍している卒業生を招いた学生・若手医師向けキャリアセミナーを定期的に開催している。2025年度は年2回開催した。その中では女性研究者や女性教員のキャリアに関する講演も行っている。（詳細は前述2.1参照）

- 2023年度～2025年度にかけて本学は文科省公募事業である「質の高い臨床教育・研究の確保事業」に採択され、「スペシャリストの継続的育成によるサステナブルな臨床教育・研究力の強化事業」が実施された。同事業では、ライフイベント等によりフルタイムでの勤務が困難となり離職を考えている医療職をシミュレーションスペシャリストとして育成し、シミュレーション教育の運営（指導や教育動画の作成など）を担ってもらうプロジェクトを推進している。（詳細は前述2.5参照）
- 教員が毎年年度末に実施する教員貢献度実績・自己評価表においては、教育活動の評価項目として、担当講義数やFD参加状況等の教育に関連した実績の調査も行っている。

今後の計画

- 女性教員の採用や活躍を促す施策を引き続き実施していく。

改善状況を示す根拠資料

資料18　学生・若手医師向けネットワークキャリアセミナー ポスター(第1回～第10回)

質的向上のための水準：適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 教員の募集および選考は医学部の理念に基づいて行われている。

改善のための示唆

· なし

関連する教育活動、改善状況

- 特記事項なし

今後の計画

- 特記事項なし

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準：部分的適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 「エフォート割合のガイドライン」に基づき、「教員個人評価活動報告書兼自己評価書」により教員を評価している。

· 教育専任教員や病院中央部門の教員の教育や運営へのエフォート率に配慮し、組織全体で職務間のバランスをとっている。

改善のための助言

· 全ての教員がカリキュラム全体への理解を深めるべきである。
· 臨床医学の教員に加えて、全学教育科目・基礎医学・社会医学の教員、および学外実習病院の指導医への能力開発を進めるべきである。

関連する教育活動、改善状況

● 総合医学教育センターでは、名古屋大学医学部の教員に向けて、「東海国立大学機構名古屋大学医学部 FD」と称する FD を 2021 年度より開始している。第 3 回より学生も参加し、グループワークを交えて活発な討議・質問が行われている。2025 年度は「臨床実習 Good　Practice 共有」をテーマに開催した。

（これまでの東海国立大学機構名古屋大学医学部 FD のテーマ）

- 第 1 回（2022 年 1 月実施）:「(コロナ禍における今後の教育のあり方を見据えた）来年度の講義・実習について」「岐阜大学との教育連携について」「IR 活動について」「ICT-NUCT の今後・機構 ID」「国の動き-共用試験の公的化・コアカリ改訂」

- 第 2 回（2022 年 7 月実施）: テーマ「反転授業」「ハラスメント」
  ハラスメントに関しては名古屋大学ハラスメント相談センターと連携し、学生向けに相談窓口の案内を周知するとともに、2022 年 6 月に教員向けの研修を実施した。反転授業に関しては、外部講師による講演を行い、グループワークを交えて活発な討議・質問が行われた。

- 第 3 回（2022 年 9 月実施）: テーマ「講義の出席について」
  実態の説明や講義の出欠についてのセミナー

- 第 4 回（2023 年 2 月実施）: テーマ「試験のあり方」
  外部講師による講演「試験の改善について」
  本学の試験の現状についての学生と教員のグループディスカッション

- 第 5 回（2023 年 10 月実施）:　テーマ「医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂」
  ・コアカリ改訂のポイントについて
  ・全国の大学におけるコアカリの展開の現状
  ・本学の対応の現状について
  ・本学の臨床実習での医行為実施状況
  ・新カリキュラムについての概要説明

- 第 6 回（2024 年 1 月実施）: テーマ「質の高い臨床実習」
  外部講師による講演「質の高い臨床教育に向けたシミュレーションスペシャリストの役割」および「診療参加型臨床実習の Good Practice」
  臨床実習における診療参加について学生と教員グループディスカッション

- 第 7 回（2024 年 5 月）：テーマ「デジタルアンプロフェッショナリズムの境界線」
  外部講師 弁護士の講演「ネット炎上の悪影響と法的問題」

- 第 8 回（2024 年 9 月）：テーマ「研究医の育成」
  ・鶴舞キャンパスにおける研究医の育成について
  ・全国の大学における臨床研修(研究医コースも含)
  ・名大の臨床研修と名大 研究医プログラムについて

- 第 9 回（2025 年 3 月）：テーマ「臨床実習 Good Practice」
  診療参加型
  ・名古屋大学での診療参加型臨床実習の取り組み
  ・Good Practice 事例紹介 1
  ・診療参加型臨床実習に関する調査について
  ・診療参加型臨床実習の取り組みと Best 臨床実習賞
  ・電子ポートフォリオについて

- 第 10 回（2026 年 1 月）：テーマ「臨床実習 Good Practice」
  ・名古屋大学での診療参加型臨床実習の取り組み
  ・Good Practice 事例紹介 1
  ・診療参加型臨床実習に関する調査について
  ・診療参加型臨床実習の取り組みと Best 臨床実習賞

- 2025年1月からは、より幅広い教員が気軽に参加しやすいよう、実践的な内容をテーマとした月一回程度開催の医学教育基礎FD (Faculty Development of Doctors' Education and Learning for Advancement： DELA-FD)も開始している。

（これまでの医学教育基礎 FD のテーマ）

- 第 1 回（2025 年 1 月）：テーマ「医学生に対するいい講義とは？ 」
- 第 2 回（2025 年 2 月）：テーマ「おしゃれなフィードバックとは？」
- 第 3 回（2025 年 3 月）：テーマ「医学教育のガイドライン⁉
  医学教育モデル・コア・カリキュラムを見てみよう！」
- 第 4 回（2025 年 4 月）：テーマ「学生を巻き込む授業の作り方」
- 第 5 回（2025 年 5 月）：テーマ「効果的な学習を設計する～学習目標編～」
- 第 6 回（2025 年 6 月）：テーマ「高品質な試験問題(MCQ)の作り方」
- 第 7 回（2025 年 7 月）：テーマ「生成 AI を教育に使ってみよう」
- 第 8 回（2025 年 9 月）：テーマ「問題ある学習者への処方箋」
- 第 9 回（2025 年 10 月）：テーマ「一対一でうまく教えるには？」

- 第 10 回（2025 年 11 月）：テーマ「医学生・研修医の気になる行動への対処法」
- 第 11 回（2025 年 12 月）：テーマ「やる気スイッチの押し方～モチベーション心理学から考える」
- 第 12 回（2026 年 2 月）：テーマ「外科医の教育～手術をどう教えるか・手術室で何を教えるか」

- 教員貢献度実績・自己評価表の教育活動の評価項目にFD参加状況の項目もあり、教員の参加も増加している。
- 「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」では2022年度以降、完全オンラインでの臨床研修指導医講習会を実施している。十分な事前学習と、オンラインならではのグループワークなども盛り込まれた非常に先進的な取り組みとして高く評価されている。学外からも多数の講習希望者があり、2023年からは6月と11月の年2回に開催回数を増やしている。2025年度も6月と11月の2回開催し、本学指導医19名を含む76名が参加した。
- 名古屋大学では新任教員向けFDとPBLチュータートレーニングも兼ねた医学教育改革ワークショップを実施していたが、コロナ禍以後一時中止となっていた。2021年度末からは同チュータートレーニングを再開し、現在オンライン実施となっているPBLチュートリアルを担当する教員の指導力の充実に努めている。2023年度からはより相互性の高いMicrosoft Teamsを活用するなど、ピアラーニングを取り入れた問題基盤型学習の充実を図っている。
- 本学は2023年度文科省公募事業「質の高い臨床教育・研究の確保事業」に採択された「スペシャリストの継続的育成によるサステナブルな臨床教育・研究力の強化事業」を2023年度～2025年度に実施した。同事業では、医学教育専門家と各診療科との対話型Faculty Development (FD)を通じて診療参加型臨床実習の推進に向けた意見交換や支援などを行っている。対話型FDでは、各診療科の臨床実習内容を診療参加型にするための具体的な助言を行うとともに、各診療科で実施しているGood Practiceについても確認し、資料としてまとめた（詳細は前述2.5参照）。
- 4年次生向けの共用試験臨床実習前OSCEの公的化を踏まえ、医療系大学間共用試験実施評価機構の主催する講習会の受講を推進しており、2025年度末時点で239名確保している。

今後の計画

- 引き続き、「東海国立大学機構名古屋大学医学部FD」を含めた様々なFDの機会を名大医学部教員および学外実習病院指導医に対し実施していく。

改善状況を示す根拠資料

資料15　東海国立大学機構名古屋大学医学部FD ポスター(第1回～第10回)
資料16　東海国立大学機構名古屋大学医学部FD 参加人数(第1回～第10回)
資料17　医学教育基礎FD(第1回～第12回)
資料40　2025年度名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク総会議事録(第一部～第二部)

資料41　2025年度名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク指導医講習会実施要綱・参加案内(第23回～第24回)

質的向上のための水準：適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· カリキュラムの構成に関連して教員を適切に配置している。

改善のための示唆

· 「PBLチュートリアル」と「基礎的臨床技能実習」の指導体制を充実することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ
- 臨床実習前の準備教育としての基本的臨床技能実習強化のため、2024年からは「基本的臨床技能実習Ⅱ」を4～5年生を対象に新たに設けた。同実習では、医療連携推進室所属の看護師にも指導者として加わり、現場目線での実習の実現や大学教員医師の負担軽減に貢献している。

今後の計画

- 基本的臨床技能実習においては、コロナ禍で利用が促進されたICTを活用しつつ対面での実習も活用し、実習内容の充実を図る。指導教員数の拡充とともに上記のような教育方略の工夫を通じて総合的な指導体制の充実を図っていく。

改善状況を示す根拠資料

前項「基本的水準」と同じ

6. 教育資源

領域6-教育資源における「改善のための助言・示唆」を受け、学生が学内・学外それぞれの臨床実習施設において、実際に経験する症候、疾患分類、患者数を把握し、確実に必要な臨床経験を積める体制を整備することが今後の課題といえる。

6.1 施設・設備

基本的水準：適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 6年生は医学部図書館に1年間占有できる専用のデスクが用意され、自習用に使用できる。

改善のための助言

· シミュレーション教育・研究・診療支援を担う「メディカルxRセンター」において、学生ごとの施設の利用状況や技能習得状況を把握すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- カリキュラム評価（IR）委員会では2021年度より、LMSを活用した学生向けのカリキュラムおよび学修環境に関するアンケート（学修環境調査）、教員向けのカリキュラムおよび教育環境に関するアンケート（教育状況調査）を開始するなどし、学修教育資源や環境に対する教員と学生からの意見を広く収集し、実際の教育環境の改善に活かしている。
  2025年度にカリキュラム評価（IR）委員会が実施した主な提言を以下に記す
  - 生協及び食堂の設備・環境
  - 図書館の設備・環境
  - サークル・部活動の設備・環境
  - 試験・カリキュラムについて
  - 講義室の設備・環境
  - 学生のコワーキングスペース・共有施設の充実
  - 教員との交流
  - 文献のアクセス改善
  - 自習室の設備・環境
  - インターネット環境
- 名古屋大学では従来からシミュレーション教育のための施設としてxRセンターが存在するが、同センターは高度な技術習得訓練も可能な施設である一方で、学生のみでは利用できない制限があった。そこで本事業では学生が、基本的な医行為のシミュレーター等を用いた練習を自主的に実施できるシミュレーション教育スペース（スキルスラボ）を2024年度新たに整備した。同施設では、カードキー等による利用状況管理を実施しながら、シミュレーション資材の学生の活用を促していく方針である。

今後の計画

- 今後も定期的に学生・教員に対し、教育資源・環境に関する調査を実施し、必要な改善に努めていく。
- 今後、東海国立大学機構として岐阜大学との連携が強化されることを踏まえ、教育面でのインフラの共有や共同設立なども計画していく。
- 2024年度新たに設けたスキルスラボのより積極的な活用を促していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 10　2025 年度学生向け学修環境調査(2026 年 2 月実施)
資料 11　2025 年度教員向け教育状況調査(2026 年 3 月実施)
資料 26　2025 年度臨床実習(5 年生・6 年生向け)医行為状況調査
資料 27　2025 年度臨床実習(教員向け)医行為状況調査
資料 32　2025 年臨床実習Ⅱにおける電子ポートフォリオシステムの導入について
　　の依頼文
資料 42　2025 年度カリキュラム評価（IR）委員会からの提案・提言事項
資料 28　2025 年度スキルスラボ利用実績

質的向上のための水準：適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための示唆

- なし

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

6.2 臨床実習の資源

基本的水準：部分的適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 「プライマリ・ケア実習」や「臨床実習Ⅱ」で選択できる学外の施設が十分に確保されている。

改善のための助言

· 学生が学内・学外それぞれの臨床実習施設において、実際に経験する症候、疾患分

類、患者数を把握し、確実に必要な臨床経験を積める体制を整備すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 名古屋大学と岐阜大学との間で共用試験(OSCE)の運営の相互支援を行った。両大学間でのPre-CC OSCE・Post-CC OSCE へ運営補助者（2〜3名）派遣が行われ、運営補助の事務担当者や準備に関する医療資格を有する方の関与の重要性が共有された。
- 2025年度も引き続き、本学は2023年度文科省公募事業「質の高い臨床教育・研究の確保事業」に採択された「スペシャリストの継続的育成によるサステナブルな臨床教育・研究力の強化事業」を実施している。（詳細は前述2.5参照）その一環として、以下の取り組みを実施している。
- 2024年1月より新6年生を対象とした臨床実習Ⅱにおいて電子ポートフォリオシステムを試験的に開始し、2025年1月より全診療科に導入した。この電子ポートフォリオは診療経験記録を実習終了後に学生が入力することで、実習先診療科の担当教員と共有できるシステムである。またAIを使って、学生が入力した経験記録から項目を抜き出すことによる経験記録の集計についても、現在試験的に実施中である。
- 2025 年 3 月、2026 年 1 月には「臨床実習 Good Practice 報告会」として診療参加型臨床実習をテーマとした FD を開始し、臨床実習の Good Practice の事例紹介などが行われた。その中には、学生に向けてカンファレンスの内容を同時解説するインカムの使用例や、スタンプラリー形式での経験記録の作成などの事例が含まれていた。また学生から診療への参加度に関して特に評価の高かった診療科を対象に Best 臨床実習賞として表彰を実施した。
- カリキュラム評価（IR）委員会では2023年度より学生（5年生・6年生）及び、診療科教員を対象に学生が経験する医行為およびシミュレーション教育の状況に関する以下の調査を実施した。同事業の取り組みの結果2025年度の調査では、多くの医行為の実施頻度、経験頻度がこの2年間で増加したことがわかった。

  学生（5 年生・6 年生）への調査

  門田レポートにて定める 74 の医療行為について実施・シミュレーション・介助・見学等の経験を調査

  診療科教員への調査

  門田レポートにて定める 74 の医療行為について実際の患者さんに対してまたはシミュレーションでの実施の有無を調査
- 「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」では2022年度以降、完全オンラインでの臨床研修指導医講習会を実施している。十分な事前学習と、オンラインならではのグループワークなども盛り込まれた非常に先進的な取り組みとして高く評価されている。学外からも多数の講習希望者があり、2023年からは6月と11月の年2回に開催回数を増やしている。2025年度も6月と11月の2回開催し、本学指導医19名を含む76名が参加した。

今後の計画

- 臨床実習Ⅱにおいて電子ポートフォリオシステムを本格的に運用していくことで学生の技能習得状況の把握を強化していく。
- 引き続き、岐阜大学医学部との臨床実習施設も含めた教育資源の共用の具体的な

検討を進めていく。

- 今後も引き続き、定期的に学生・教員に対し、教育資源・環境に関する調査を実施し、必要な改善に努めていく。

改善状況を示す根拠資料

資料 09　文科省 質の高い臨床教育・研究の確保事業「スペシャリストの継続的育成によるサステナブルな臨床教育・研究力の強化事業」2025 年度報告書
資料 43　東海国立大学機構名古屋大学医学部 FD 第 9 回・第 10 回（臨床実習 Good practice）
資料 26　2025 年度臨床実習(5 年生・6 年生向け)医行為状況調査
資料 27　2025 年度臨床実習(教員向け)医行為状況調査
資料 32　2025 年臨床実習Ⅱにおける電子ポートフォリオシステムの導入についての依頼文
資料41　2025年度名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク指導医講習会実施要綱・参加案内(第23回～第24回)

質的向上のための水準：部分的適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための示唆

- 患者や地域住民へのアンケートの結果に基づいて、臨床実習施設を評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 2019年度より現在学内での実習においては学生を指導した医師・看護師・学生が診察した患者を対象に、患者満足度評価のアンケートを実施している。新型コロナウィルスの影響で対面での臨床実習を中止していたため、アンケートは一時中断となっていたが、2023年1月より再開し、今後も継続を予定している。

今後の計画

- 今後は学外実習施設にもアンケート対象を拡充することを検討していく。また、今後は患者満足度評価のアンケート実施結果を学生個人と紐づけ、患者も評価者とした360度評価に用いることを検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料44　2025年度患者及びスタッフ満足度アンケート

6.3 情報通信技術

基本的水準：適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

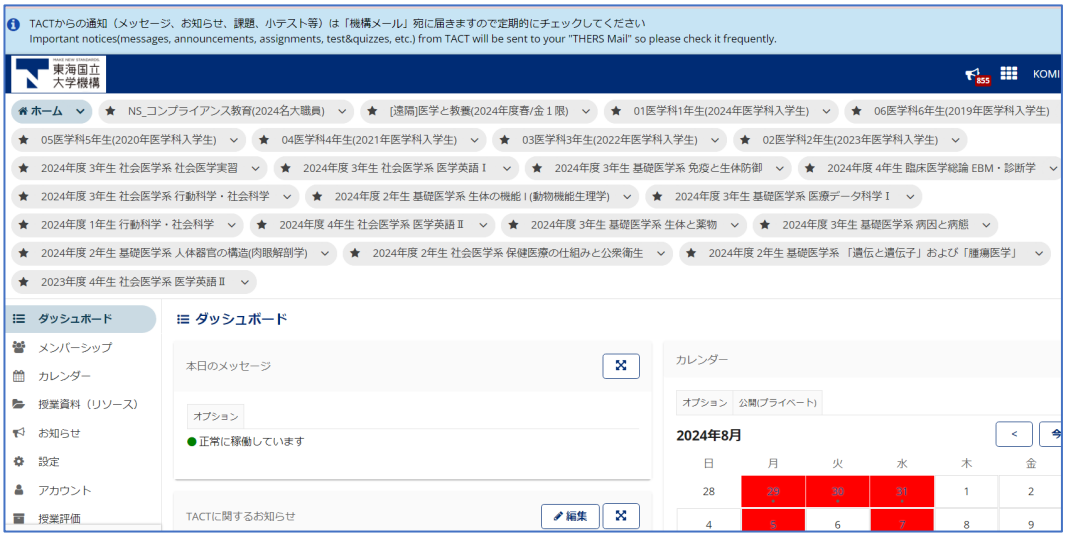
・　全ての学生が学外でも充分な情報サービスを利用可能である。

改善のための助言

・　情報通信技術の活用方法について、それを促し評価する方針を履行すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 2023年4月より、東海国立大学機構（岐阜大学と名古屋大学）の両大学の学生、教職員が共同で利用するLMSである、TACT(TOKAI Academic Combination Tools)がスタートした。コロナ禍においては、ほぼ全ての授業においてオンラインツール（Teams又はZoom）やLMS（TACT）を用いた開講であった。2023年度からはその殆どが対面による授業に戻ったが、授業資料の配布や課題の提出などへのLMSの活用はコロナ禍を経て大幅に広がった。現在授業アンケートもTACTを用いて実施している。



- 本学のPBLチュートリアルは、コロナ禍よりオンライン(Teams)でのグループミーティングを実施する形式に変更しており、コロナ禍後も、学生に積極的に情報通信技術の活用を促す目的で、引き続きオンラインにて開催している。 PBLチュートリアルでは、チャットへの適切な投稿や、意見交換も評価の対象とし、情報通信技術を活用したコミュニケーションの在り方に関する指導も行っている。2024年にはPBLチュートリアルの評価結果がその後の共用試験等の成績に与える影響についての教学データ分析を、カリキュラム評価（IR）委員会とPBL実施委員会にて行い、現行のPBLチュートリアルの評価は態度や技能に関する評価として一定の妥当性が得られていることを確認した。
- 臨床実習中の学生とのリアルタイムでのコミュニケーションを促進する目的で、2025年1月からはMicrosoft Teamsを臨床実習での連絡ツールとして導入した。同アプリを用いた通話やチャット等により、緊急対応時に学生を呼び出したり、学生に対するフィードバックを行ったりすることが可能になった。
- 2024年度からの新カリキュラムでは「医療データ科学」を新設した。この科目は3年次「医療データ科学Ⅰ」と4年次「医療データ科学Ⅱ」に分けて開講され、医学・医療分野で急速に蓄積されつつある多種多様なデータを適切に分析しその結果を正しく解析することで、新たな解決策の提案や意思決定を行う能力の育成を目的としている。講義の中では、実際にいくつかの情報通信サービスを学生に活

用させる課題や内容も含まれている。

今後の計画

- 今後も定期的に学生・教員に対し、教育資源・環境に関する調査を実施し、必要な改善に努めていく。
- 診療録の記載方法についての教育を強化するため、2025年度からは、基本的臨床技能実習Ⅱにおいても診療録記載についての実習を強化した。

改善状況を示す根拠資料

資料23　2026年度医療データ科学Ⅰ・Ⅱ(3・4年次)の講義について
資料45　カリキュラム評価（IR）委員会レポートPBLチュートリアルの成績とOSCE試験成績との関連の検討
資料32　2025年臨床実習Ⅱにおける電子ポートフォリオシステムの導入についての依頼文
資料34　臨床実習 Microsoft Teams導入資料
資料46　2025年度基本的臨床技能実習Ⅱについて

質的向上のための水準：適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

・　Nagoya University Collaboration and course Tools（NUCT）は学内外から利用可能であり、e-learningに活用されている。

改善のための示唆

・　学生向けに電子カルテ使用マニュアルを作成し、その説明会を開催することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

6.4 医学研究と学識

基本的水準：適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

・　医学部学生が行う研究を支援する組織としての「学生研究会」の活動や基礎医学セミナー等を設定し、多数の学生が研究活動に参加していることは評価できる。

改善のための助言

・　「学生研究会」の医学部組織におけるあり方を明確にすべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 本学では医学部学生が研究活動に参加する枠組みとして「学生研究会」を設けており、担当教員を配置して活動を支援している。学生研究会の活動状況は、教授会や医学部医学科教育委員会へ定期的に報告されており、2025年6月の医学部医学科教育委員会にて報告を行った。
- 学部から大学院までの一貫した研究医養成を行うため、2025年4月に研究科内措置施設として卓越大学院・医学研究者養成推進室を整備し、学生研究会を含む医学研究者養成に関する取組を推進する体制を明確化した。同推進室には、1名の室長（教授又は准教授）と2～4名の特任助教を配置している。
- オープンキャンパスやホームページ等で名古屋大学医学部医学科が研究医の養成に力を入れていることを周知した。2025年度の新入生にアンケートを実施した結果、90%以上の新入生が入学前から名古屋大学における研究医養成の取り組みを知っており、50%以上の新入生が研究医の養成に力を入れていることを入学理由に挙げた。
- 2025年度は、医学科専門科目「医学入門」における基礎医学体験実習及び全学教育科目「基礎セミナー」に、1年次の学生112名全員が参加した。
- 2025年度の基礎医学セミナーは、3年次の学生110名全員が参加した。基礎医学セミナーは、半年間、基礎医学研究室に配属され、最後に研究発表会を開催する。2025年度は、32名が口頭発表を、78名がポスター発表を行った。また、2024年度に基礎医学セミナーを終了した学生120名のうち45名が2025年度も研究を継続した。
- 2025年度は学生研究会ベーシックコース（希望に合った研究室探しをサポート）において、メディカルサイエンスカフェ、ラボツアー、研究体験コースを開催し、1年次の学生112名のうち89名が参加した。
- 2025年度は学生研究会アドバンストコース（自主的な研究活動をサポート）において、各種研究活動に関する情報提供や旅費助成を実施した。また、研究室に所属し研究活動を行っている学生142名を学生研究会アドバンストコースの対象学生として把握した。
- 名古屋大学医学部を含む4大学連携「基礎研究医養成イニシアチブ」（東京大学、京都大学、大阪大学の各医学部）を実施した。2026年3月に合同ラボツアーを実施し、4大学から26人が参加した。
- 2015年度から2025年度まで実施してきた大学院博士課程プレプログラムを発展的に改組し、2026年度よりHonours Student Program（HSP）を開始した。HSPは、学部在学中から継続的に研究活動に取り組む学生を認定するプログラムである。1年以上の研究活動、中間発表、Thesis作成又は査読付き原著論文発表、最終発表等を通じて、研究成果を体系的にまとめ、発信する能力を養成する。これにより、学部段階からMD・PhDコース及び博士課程への接続を強化していく。
- 医学系研究科の大学院博士課程においてMD・PhDコースを募集した。大学院説明会において、MD・PhDコースを紹介した。MD・PhDコースに入学する大学院生を対象にスカラーシッププログラムを提供した。2025年度はMD・PhDコースPlan Bに1名が入学した。
- 名古屋大学医学部附属病院の初期臨床研修においては、2021年4月に「基礎医学研究医を目指す人のためのプログラム」を開設し、2021年度、2022年度は各1名を採用した。
  2023年度からは、「研究医を目指す人のためのプログラム」として募集定員を3名

に拡大し、3名を採用した。2025年度は本プログラムにおいて6人（2年目3人、1年目3人）が研修を行っている。

- 2021年4月に臨床研究教育学講座が、「①出口戦略まで見据えることができる臨床研究人材の育成」「②先端医療開発部との連携のもとでの各種臨床研究の支援」「③専門性・部局・立場を超えた臨床研究共創の場の形成」を主なミッションとして開講した。臨床研究全般の質向上を目指す各種臨床研究支援や、臨床研究に関するリテラシー向上を目指した教育（学部教育、臨床研究教育）を行っている。
- 2024年度～2030年度にかけて、本学は文部科学省による「高度医療人材養成拠点形成事業」に採択された。本プログラムでは、医学部生をSAとして雇用する。初級コース修了後には中級コースで研究OJTに参画し、研究支援者の協力の下で実践的に研究スキルを習得する仕組みを構築している。
- 4DIN社のSIMPRESEARCHを導入し、カルテデータや保険者データ等のRWDを可視化することにより、臨床研究のフィージビリティ調査を加速することで、RWD研究を推進した。
- 医学部医学科の学校推薦型選抜において、医学研究者への志向性を持つ人材を募集している。医学部医学科のオープンキャンパスにおいて、学校推薦型選抜や学生研究会を始めとする研究医養成のための取り組みを紹介した。2025年度は学校推薦型選抜にて12名が入学した。
- 医学部医学科の第2年次学士編入学において、生命科学系あるいは理工学系等出身の、多様な経験を有する人材を募集した。2025年度は第2年次学士編入学にて4名が入学した。また2024年度より、異分野融合を推進し、自然科学への強い関心や医学研究者としての適性を有する学生を選抜することを目的として、編入学試験に「理学部長推薦制度」が導入された。本制度では、名古屋大学理学部の卒業見込み者のうち、理学部による審査により自然科学への強い関心や医学研究者としての適性が認められ、推薦を受けた者については、医学部医学科の学士編入学試験における第1次選考（自然科学・英語）が免除される。

今後の計画

- ディプロマポリシーに掲げた「新しい医学・医療の開拓」を身につけた人材を育成するために、引き続き医学科専門科目と学生研究会の活動を通じて、医学研究に接する機会を提供し、リサーチマインドを涵養する。
- 将来の医学・医療を開拓する卓越した研究医を養成するために、全国から研究志向の入学生を募集し、学部生が医学の研究開発に携わることを奨励し、研究医を目指す学部生や卒業生を支援する。これらの取り組みを切れ目なくおこなうことで、研究医志望者が研究に専念できる環境を整備する。

改善状況を示す根拠資料

資料07　2025年度新入生アンケート(2025年4月実施)
資料 19　2024 年度冬 臨床研究教育セミナー 告知ポスター
資料 20　2024 年度 臨床研究教育学講座シンポジウムポスター
資料 47　文科省 質の高い臨床教育・研究の確保事業 2025 年度実績報告書
資料48　卓越大学院・医学研究者養成推進室
資料49　名古屋大学大学院医学系研究科卓越大学院・医学研究者養成推進室内規
資料50　機構図
資料51　2025年度基礎医学体験実習実施要領

資料52　2025年度基礎医学セミナー実施要項
資料 53　2025 年度学生研究会活動実績
資料 54　2025 年度旅費助成募集要項
資料 55　Honours Student Program（HSP）について
資料 56　2026 年度 Honours Student Program 募集要項
資料57　2025年度名古屋大学医学部附属病院初期臨床研修プログラム
資料58　2025年度推薦入試医学部の出願資格・要件及び選抜方法
資料59　2025年度第2年次学士編入学学生募集要項
資料60　2026年4月医学部医学科学士編入学理学部長推薦制度募集要項
資料61　文科省　「高度医療人材養成拠点形成事業」採択について

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）
- なし

改善のための示唆
- なし

関連する教育活動、改善状況
- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画
- 前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料
- 前項「基本的水準」と同じ

6.5 教育専門家

基本的水準：適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）
- 総合医学教育センターに教育専門家が配置され、カリキュラム開発、教育技法、および評価方法の開発をはじめ、医学教育の改革に貢献している。

改善のための助言
- 総合医学教育センターの活動に基づき、医学部をあげて教育活動を促進すべきである。

関連する教育活動、改善状況
- 2021年度、出口戦略まで見据えることができる臨床研究人材の育成のために「臨床研究教育学講座」を設置し、2024年度も臨床研究全般の質向上を目指す各種臨床研究支援や、臨床研究に関するリテラシー向上を目指した教育（学部教育、臨床研究教育）を行った。
- 卒後臨床研修・キャリア形成支援センター所属の教育専任教員のうち、卒前教育

にも関わる一部の教員は、総合医学教育センター併任とすることで、卒前教育に関わる教育専門家の充実を図っている。センターには現在4名の日本医学教育学会認定医学教育専門家が所属している。

- 総合医学教育センターでは、名古屋大学医学部の教員に向けて、「東海国立大学機構名古屋大学医学部FD」と称するFDを2021年度より実施している（詳細は5.2参照）。また2025年1月からは、より幅広い教員が気軽に参加しやすいよう、実践的な内容をテーマとした月一回開催の医学教育基礎FD（Faculty Development of Doctors' Education and Learning for Advancement： DELA-FD)も開始している（詳細は5.2参照）。各FDでは、センター所属の医学教育専門家を中心とする学内講師に加え、外部からも様々な分野の教育専門家を招聘し、講演やワークショップを開催している。（詳細は前述の5.2を参照）
- 名古屋大学医学部は同じ東海国立大学機構の下に設置されている岐阜大学医学部とともに2021年度より東海国立教育連携WGを開催し、両大学の医学教育専門家間の交流を図っている。（詳細は前述2.1参照）実際の岐阜大学との教育連携の一例として、2022年度からは1年生を対象とした「医学入門」の一部の講義で岐阜大学との連携授業を実施している。

今後の計画

- 「東海国立大学機構名古屋大学医学部FD」を含めた様々なFDの機会を名大医学部教員および学外実習病院指導医に対し今後も実施していく。
- 卒後臨床研修・キャリア形成支援センター所属の教育専任教員のうち、卒前教育にも関わる一部の教員は、総合医学教育センター併任とし、卒前教育に関わる教育専門家の充実を図る。また同センター教員等の認定医学教育専門家取得、医療者教育学修士課程取得、履修証明型医学教育学プログラム「現場で働く教員・指導医のための医学教育学プログラム-基礎編（Foundation Course for Medical Education：FCME）」受講などを支援していく。

改善状況を示す根拠資料

資料62 現場で働く指導医のための医学教育学プログラム基礎編(FCME)ハンドブック（2025～2026年）

質的向上のための水準：適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 教育に関する研究が活発に行われている。

改善のための示唆

· 学内の教育学部や、東海国立大学機構を構成している岐阜大学医学部との連携交流が望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ
- 2023年度からは、指導医にむけた履修証明型医学教育学プログラムである「現場で働く教員・指導医のための医学教育学プログラム-基礎編（FCME）」を本学にて開催しており、本学の多くの教育専門家が講師等として関わり、教育専門家の育

成を行った。同プログラムには国内外の様々な施設の指導医（各年12名）が参加している。
- 2026年度からは、上記プログラム履修生を対象とした医学教育学の修士課程を開講した。
- 学内の教育専門家による研究活動も引き続き活発に行われており、日本教育学会学術集会での発表、学会誌「医学教育」や「Medical Teacher」等の国際誌への論文投稿が行われている。
- 2020年度～2024年度に引き続き、2025年度も文部科学省高等教育局医学教育課に技術参与として本学教員を派遣している。

今後の計画
- 2025年度以降も指導医にむけた医学教育プログラム（FCME）を学内の教育専門家が中心となり開催を予定しており、教育専門家の育成を行う予定である。また、大学院の医学教育学分野の修士課程を通じた医学教育学研究者の育成にも努めていく。

改善状況を示す根拠資料
- 前項「基本的水準」と同じ

6.6 教育の交流

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）
· 基礎研究や臨床実習で多くの学生を海外に派遣するのみならず、海外からの医学生を多数受け入れていることは評価できる。

改善のための助言
· 国内の教育機関との交流をさらに促進すべきである。

関連する教育活動、改善状況
- 名古屋大学医学部は同じ東海国立大学機構の下に設置されている岐阜大学医学部とともに2021年度より東海国立教育連携WGを開催し、両大学の医学教育専門家間の交流を図っている。（詳細は前述 2.1 参照）実際の岐阜大学との教育連携の一例として、2022 年度からは 1 年生を対象とした「医学入門」の一部の講義で岐阜大学との連携授業が実施され、2025年も6月に実施した。
- 国際通用性のある教育課程の編成・実施に向け、医学英語教育の体系化を進めている。従来、4年次を中心に実施していた医学英語教育について、2022年度より3年次に「医学英語Ⅰ」を新設し、4 年次の医学英語を「医学英語Ⅱ」として再編した。さらに2024 年度以降は、新カリキュラムのもとで医学英語を単位化し、必修科目として位置づけた。これにより、医学英語教育を一部の希望者や海外派遣予定者に限定するのではなく、全学生が段階的に学修する教育課程として整備した。
- 3年次の「医学英語Ⅰ」では、オーストラリア・モナシュ大学の学生とともにCOIL型のオンライン共同授業を実施している。同授業では、名古屋大学の学生が事前学修を行った上で、モナシュ大学の学生とZoomを用いて合同セッションを行い、医療面接、history taking、chief complaint interview、role-play、グループ

発表等に取り組んでいる。学生は、英語で患者情報を聴取し、医学的内容を説明する練習を行うとともに、日本とオーストラリアにおける医療面接の進め方や患者対応の違いについても学修している。また、異なる文化的背景を持つ学生との協働を通じて、英語による医療コミュニケーション能力、異文化理解、国際的な協働力を養っている。2025年度は、名古屋大学医学科学生108名が同授業に参加した。

- 4年次の「医学英語Ⅱ」では、海外臨床実習や国際的な臨床環境で必要となる実践的能力の育成を目的として、医療記録、医療倫理・法的側面、clinical history、physical examination、vital signs等を英語で学修している。同授業では、診療録の構成、医療記録の目的、法的・倫理的意義、患者情報の記載方法、医療チーム内での情報共有等を扱い、clinical vignetteやpeer practiceを通じて、学生が臨床情報を英語で理解し、整理し、記録する基礎を身につけることを目指している。
- 医学英語教育に加え、英語による医学専門教育の機会も設けている。例えば、血圧生理、高血圧の病態生理、診断基準、治療等を英語で学ぶ選択特別講義を開講し、学生が専門的医学知識を英語で理解し、説明する機会を提供している。同講義では、血圧調節に関わる循環器・腎臓・呼吸器の基礎、血圧・脈拍の測定、異常値の臨床的意義、高血圧の分類、診断基準、薬物療法・非薬物療法等を英語で扱っている。このような授業は、学生が海外留学先で受講する講義に近い形式を経験する機会としても位置づけている。
- これらの取組により、1年次の「医学入門」における英語による基礎医学学習、3年次の「医学英語Ⅰ」、4年次の「医学英語Ⅱ」、英語による医学専門講義、5年次の海外臨床実習派遣前講義、6年次の海外臨床実習へとつながる、学年進行に応じた国際教育の流れを整備している。また、医学英語セミナー、海外協定校とのオンライン臨床ケースディスカッション、サマースクール、短期国際共同教育プログラム等を組み合わせることで、渡航型プログラムに参加する学生のみならず、国内にいながら国際的な学修経験を得られる機会を拡充している。
- 海外臨床実習については、2025年度に19名の医学科学生を海外協定校・連携校へ派遣した。学生は、各国の大学病院・医療機関において臨床実習または臨床見学を行い、現地の医療制度、臨床教育、患者対応、医療チームのあり方について学修した。派遣前には、医学英語、医療安全、感染対策、異文化理解等に関する事前指導を行い、海外での学修成果を高めるための支援を実施している。
- 柴原慶一基金を活用した医学部学生海外留学支援プログラムとして、医学科学生の海外派遣機会を拡充している。同基金は、医学部学生の海外留学を促進し、すべての学生が平等に海外で学ぶ機会と環境を提供することを目的として設立されたものであり、国際的に活躍する医学研究者や医療人材の育成を支援している。2025年度は、臨床実習型の海外派遣に加え、基礎医学研究、基礎系専門分野、創薬・医療イノベーション等に関連する海外派遣・学修機会の整備を進めた。
- 同基金による「基礎医学セミナー海外派遣留学プログラム」では、3年次の基礎医学セミナーを海外の研究機関で実施することを希望する研究意欲の高い医学科学生を対象としている。本プログラムは、国際的に活躍する医学研究者の育成を目的とし、学生が海外研究機関で研究活動に参加し、帰国後に報告書を提出するとともに、基礎医学セミナー研究発表会において英語で発表を行うことを求めている。これにより、医学科学生が早期から国際的な研究環境に触れ、研究計画の立案、研究遂行、英語による成果発表、海外研究者とのコミュニケーションを経験

する機会を提供している。

- また、同基金による「選択臨床実習 基礎系専門分野配属海外派遣留学プログラム」では、5・6年次の選択臨床実習における基礎系専門分野配属を海外の研究機関で実施することを希望する医学科学生を対象としている。本プログラムは、基礎医学セミナー後も研究活動を継続している学生に対し、海外研究機関で基礎医学・基礎系専門分野に関連する研究活動を行う機会を提供するものである。これにより、臨床実習型の海外派遣に加え、基礎医学研究を志向する学生に対する国際的な研究教育の機会を拡充している。
- さらに、柴原慶一基金の枠組みにおいて、創薬、医療イノベーション、国際的な企業研究環境等に関心を持つ医学科学生を対象とした起業家養成に関する取組も進めている。Novartis等の国際的な研究開発環境に触れる機会を通じて、学生が基礎医学研究、臨床医学、創薬、医療技術開発、産学連携等を横断的に捉え、将来的に国際的な視野を持って医学研究や医療イノベーションに貢献するための素地を養うことを目的としている。
- 実渡航による派遣としては、高麗大学で開催された学部研究シンポジウムに5名の医学科学生を派遣した。同シンポジウムでは、学生が自身の研究内容を国際的な環境で発表し、海外の学生・教員と意見交換を行う機会を得た。これにより、学生は英語による研究発表能力、質疑応答能力、国際的な研究交流に必要な姿勢を身につけることができた。
- 国際学術アライアンスGlobal Alliance of Medical Excellence (GAME) 関連の派遣として、モナシュ大学への実渡航プログラムに4名、GAME TEI Future Leaders Summitに3名の医学科学生が参加した。GAME TEI Future Leaders Summitは、モナシュ大学プラートキャンパスで開催され、医療ロボティクス、シミュレーション、AI、バイオデザイン、医療技術に関する倫理的・法的課題等をテーマとする国際共同教育プログラムであった。これらのプログラムを通じて、学生は海外大学の学生・教員とともに医学・医療に関する課題について学修し、討論や発表を行った。異なる教育制度や医療制度を背景に持つ参加者との交流を通じて、国際的な視野を広げるとともに、英語による医学的議論や共同作業を経験した。また、IPEワークショップでは、海外教員による講義・教育活動が行われ、本学医学科学生10名が参加した。本取組は国際的な教育資源を学内に取り入れ、学生が国内にいながら国際的な視点に触れる機会として意義があった。
- 受入については、海外協定校・連携校からの医学生等を対象に、名古屋大学医学部における教育、臨床見学、学生交流等の機会を提供した。2025年度の短期サマープログラムでは、デューク大学2名、ノースカロライナ大学チャペルヒル校2名、ジョンズホプキンス大学2名、北京大学5名の計11名を受け入れた。同プログラムでは、日本の医療制度、地域医療、高齢社会、医療イノベーション、地域包括ケア等をテーマに、講義、フィールドワーク、学生交流、グループワーク等を実施した。また、本学医学科学生との交流や共同作業を通じて、参加学生が各国の医療制度や社会的背景を比較し、多様な視点から医療課題を考察する機会となった。
- コロラド大学との連携では、高齢社会、地域医療、医療イノベーション、アントレプレナーシップをテーマとした国際共同教育プログラムを実施した。同プログラムでは、日米の学生が混成チームを組み、講義、現地調査、課題発見、アイデア創出、プレゼンテーション等を行った。医学・工学・ビジネス等の分野を横断した学修を通じて、従来の臨床実習型国際交流に加え、社会課題解決型・学際型

の国際教育を推進した。

- 以上の取組を通じて、2025年度は、海外臨床実習、研究発表、国際共同教育、オンライン交流、海外学生受入を組み合わせた多層的な国際教育を実施した。従来の海外派遣中心の国際交流に加え、オンライン共同授業や短期集中型プログラム、学際的な社会課題解決型教育を展開することで、より多くの医学科学生が国際的な学修経験を得られる体制を整備している。これにより、学生の英語による医療コミュニケーション能力、異文化理解、国際的協働力、比較医学的視点、研究発信力の向上を図っている。

今後の計画

- 国内外の連携について、今後も拡大を推し進めるため、関係機関との連携を積極的に進めていく。

改善状況を示す根拠資料

資料14　2025年度東海国立教育連携ＷＧ 議事録・活動報告
資料 63　医学英語Ⅰ・医学英語Ⅱ シラバス
資料 64　英語による医学専門講義シラバス
資料 65　2025 年度正式派遣留学学生募集要項
資料 66　2025 年度派遣計画
資料 67　2025 年度海外臨床実習派遣実績一覧

資料 68　柴原慶一基金 医学部学生海外留学支援プログラム 2025 年度 3 年生対象「基礎医学セミナー海外派遣留学プログラム」募集要項
資料 69　柴原慶一基金 医学部学生海外留学支援プログラム 2025 年度 5 年生・2026 年度 6 年生対象「選択臨床実習 基礎系専門分野配属海外派遣留学プログラム」募集要項
資料 70　柴原慶一基金 医学部学生海外留学支援プログラム 2025 年度「起業家養成海外派遣留学（短期・長期）プログラム」募集要項
資料 71　Invitation for Nagoya University (Korea University Research Student Conference)
資料 72　モナシュ大学派遣日程表
資料 73　Global Alliance of Medical Excellence (GAME) 概要
資料 74　GAME TEI Summit for Future Leaders 関係資料
資料 75　GAME 関連 IPE ワークショップ実施資料
資料 76　2025 年度 NUSOM Summer Program 概要・日程表
資料 77　2025 年度名古屋大学・コロラド大学ボルダー校アントレプログラム関連資料

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

· 国外の教育機関との交流に手厚い支援を提供している。

改善のための示唆

· なし

関連する教育活動、改善状況

- 医工連携により、最先端の医療技術の開発や人材育成を目指し、2023 年 4 月に名古屋工業大学と共同研究の促進や研究者と学生らの交流、研究施設の相互利用などを進める基本協定を結び、メディカル xR センター内に医工学共想研究室を設置している。2023 年 7 月からは新たな交流の場として医工学交流カフェを定期的に開催している。2023 年 10 月に名古屋工業大学-名古屋大学医学系研究科合同シンポジウム（メディカル AI 人材養成産学協働拠点(AI-MAILs)・医工連携拠点共催）を開催している。2024 年 10 月には両大学も支援するスタートアップ支援施設 STATION Ai が両大学のキャンパスが位置する鶴舞地区に誕生した。

今後の計画

- 他の留学プログラムやオンラインプログラムも活発に行われ、各連携大学との交流が盛んに行われている。パンデミック後、状況はかなり改善し、今後はさらなる活動の拡大が予想される。今後も国内外関係機関の協力を得て、交流の充実を図っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料78　名古屋大学・STATION Ai株式会社 基本合意書について

7. 教育プログラム評価

領域 7-教育プログラム評価における「改善のための助言・示唆」を受け、カリキュラム評価（IR）委員会が分析した教育プログラムの評価結果を、カリキュラムに確実に反映していくことが今後の課題といえる。

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準：部分的適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

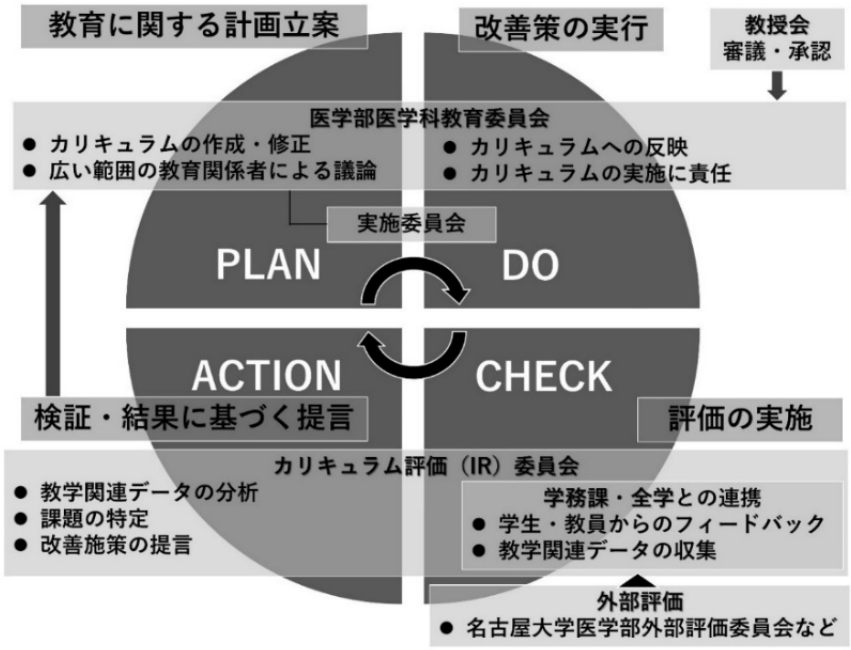
特記すべき良い点（特色）

- カリキュラム評価（IR）委員会を2019年度に新たに設置し、各部署が収集した教学データを一元化して集積・分析する体制を整えている。

改善のための助言

- 各教育組織の役割と責任を明確にしたうえで、教育プログラムを適切に評価し、改善・計画・実施する体制を構築すべきである。
- 教育プログラム評価を行う組織は、カリキュラムの立案と実施を行う組織とは独立しているべきである。
- 入学時から卒業後も継続して、長期的に学修成果の達成度を評価する方法を新たに構築すべきである。
- カリキュラム評価（IR）委員会が分析した教育プログラムの評価結果を、カリキュラムに確実に反映すべきである。

関連する教育活動、改善状況



- 本学では上記図のように、カリキュラム評価（IR）委員会が「評価の実施」と「検証・結果に基づく提言」を担当し、医学部医学科教育委員会が「教育に対する計画立案」と「改善策の実行」を担当することで、教育PDCAサイクルを回している。
- 2022年度より、医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会の学生委員を別に専任するなど、両者の独立性を高めている。
- カリキュラム評価（IR）委員会では、2021年度より下記アンケートを継続して実施し、医学部医学科教育委員会、教授会などに報告している。内容的に公開可能な結果は全学生および教職員に開示している。
  - ・授業評価アンケート
  - ・ディプロマポリシー達成状況に関する自己評価
  - ・学修環境調査―学生向けのカリキュラムおよび学修環境に関するアンケート
  - ・教育状況調査―教員向けのカリキュラムおよび教育状況に関するアンケート
  - ・卒業生進路先（初期研修先）アンケート
  - ・卒業生アンケート

  このうち、「学修環境調査」「教育状況調査」「卒業生アンケート」では個々の講義・科目ではなく、カリキュラム全体への意見収集や評価を実施している。
  上記のアンケートを継続的に実施することにより、幅広い教育関係者による本学カリキュラムやディプロマポリシー（学修成果）達成状況の評価が行われている。これにより、カリキュラム評価（IR）委員会のプログラム評価活動がより実質的なものとなってきている。
- 卒業生自身や卒業生進路先による本学卒業生のディプロマポリシー（学修成果）達成状況の継続的評価が開始されたことから、在学中のみに留まらず卒業後も継続して、長期的に学修成果の達成度を評価する体制が構築された。
- これらの評価の結果、本学卒業生は基礎的な知識の習得・知的好奇心をもち新しいことを吸収しようとする姿勢に強みがある一方で、地域医療への貢献を目指す姿勢・プロフェッショナリズムといった点に関しては学修成果に掲げているにもかかわらずその達成状況が十分ではないことが判明した。これらの結果は医学部医学科教育委員会に提供され、新カリキュラム作成の議論に活用されている。
- これまでのカリキュラム評価（IR）委員会が実施した主な提言のタイトルを以下に記す。

2022年4月
- 学生の電子カルテの数
- 生協及び食堂の設備・環境
- 図書館の設備・環境
- 保健管理室の環境
- サークル・部活動の設備・環境
- インターネット環境

2022年9月
- 臨床実習アンケートの周知・臨床実習手帳にも記載
- NUCTでの講義資料の配布

2023年3月
- 理念・ディプロマポリシーの定期的な見直し

2023年5月

・　生協及び食堂の設備・環境
・　図書館の設備・環境
・　サークル・部活動の設備・環境
・　試験・カリキュラムについて
・　講義室の設備・環境
・　自習室の設備・環境
・　インターネット環境

2024年3月
・　生協及び食堂の設備・環境
・　図書館の設備・環境
・　サークル・部活動の設備・環境
・　試験・カリキュラムについて
・　講義室の設備・環境
・　自習室の設備・環境
・　インターネット環境
・　国際交流

2024年9月
・　理念およびディプロマポリシーの見直しについて

2025年3月
・　理念およびディプロマポリシーの見直しについて

2025年4月
・　生協及び食堂の設備・環境
・　図書館の設備・環境
・　サークル・部活動の設備・環境
・　試験・カリキュラムについて
・　講義室の設備・環境
・　学生のコワーキングスペース・共有施設の充実
・　教員との交流
・　文献のアクセス改善
・　自習室の設備・環境
・　インターネット環境

- 総合医学教育センターでは、名古屋大学医学部の教員に向けて、「東海国立大学機構名古屋大学医学部FD」と称するFDを2021年度より実施している。これらのFDに合わせてカリキュラム評価（IR）委員会では、各テーマに合わせた事前調査を実施し、FDにおける議論の資料として提供している。
- カリキュラム評価（IR）委員会では、学務課と連携して、入試データや成績データなどの教学データの分析活動を行っている。
- 2023年12月には、5年ごとに実施されている名古屋大学医学部・医学系研究科外部評価委員会による外部評価を受審した。この外部評価は病院機能を持ち、診療面での評価も求められる医学部において、独自に実施しているものであり、東京大学、三重大学、東北大学、大阪大学、岐阜大学の教授5名と民間（日本放送協会）の5名の委員が、学部教育、大学院教育、研究、診療、業務運営の5点について自己評価に基づいて評価している。この外部評価の自己点検評価報告書は2024年3月

に発刊し、ホームページにも掲載している。
- NPO法人卒後臨床研修評価機構（略称JCEP）による外部評価も2021年1月に訪問審査、2024年秋に書類審査を受ける形で継続的に受けている。病院の臨床実習に関する環境も含めた評価も実施し、2027年2月までの認定を得ている。
- 2024年11月、名古屋大学医学部附属病院は、JCI（Joint Commission International）による国際基準での病院機能評価を受審し、認証を得た。同評価では学生教育環境等も国際的な患者安全の基準から評価されており、本学の臨床教育は国際基準に適合しているとの評価を得た。

今後の計画
- カリキュラム評価（IR）委員会では、引き続き在学生だけでなく、卒業生および卒業生の進路先に対しても本学のカリキュラムや卒業生の学修成果達成状況に関する調査を実施し、その結果は医学部医学科教育委員会を始めとした責任ある組織に提供し提言を実施していく。
- カリキュラム評価（IR）委員会では、今後も引き続き入試枠毎の学生の背景や実績に関する分析、国家試験や共用試験の成績に寄与する因子の分析、各専門科目の学士試験の妥当性に関する分析などの教学データの分析を予定しており、教育プログラムの構造、内容、入学試験・学士試験方法などに関する評価を実施していく。
- 名古屋大学医学部・医学系研究科外部評価委員会、JCI（Joint Commission International）、JCEP（NPO法人卒後臨床研修評価機構評価）などの外部評価は、今後も定期的に受審し、教育プログラム改善に活用していく。

改善状況を示す根拠資料

冊子資料③　2024年3月 外部評価報告書(学部教育部分 抜粋)
資料03　2025年度卒業生を受け入れていただいた医療機関等へのアンケート調査
資料04　2025年度卒業生調査(2025年10月実施)
資料10　2025年度学生向け学修環境調査(2026年2月実施)
資料11　2025年度教員向け教育状況調査(2026年3月実施)
資料07　2025年度新入生アンケート(2025年4月実施)
資料79　2025年度カリキュラム評価（IR）委員会(第1回～第3回)議事メモ
資料31　2025年度学生向け授業評価アンケート(一部抜粋)
資料42　2025年度カリキュラム評価（IR）委員会からの提案・提言事項
資料80　NPO法人卒後臨床研修評価機構評価JCEP 認定書(2025年3月更新)
資料81　JCI(Joint Commission International)認定書について

質的向上のための水準：部分的適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）
特記すべき良い点（特色）
- なし

改善のための示唆
- 定期的かつ包括的に教育プログラムを確実に評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画
- 前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料
- 前項「基本的水準」と同じ

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準：部分的適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）
特記すべき良い点（特色）
- 新型コロナウイルス感染症の拡大を契機として、医学部医学科教育委員会の学生委員からの主体的な意見が収集され、カリキュラムに反映されている。

改善のための助言
- 教育プログラムに関して、教員と学生から系統的にフィードバックを求め、分析し、教育プログラムに確実に反映すべきである。

関連する教育活動、改善状況
- カリキュラム評価（IR）委員会では、2021年度より下記の9調査を定期的に実施し医学部医学科教育委員会をはじめ該当の実施委員会、教授会へ報告を行っている。内容的に公開可能な結果は全学生および教職員に開示している。

  年1回実施
  - ①学生に対する「ディプロマポリシー達成状況に関する自己評価」
  - ②学生向け学修環境調査
  - ③教員向け教育状況調査
  - ④卒業生進路先医療機関等（初期研修先など）への調査
  - ⑤卒業生に対しディプロマポリシー達成状況に関する調査
  - ⑥新入生アンケート

  各科目・実習終了後実施
  - ⑦授業評価アンケート
  - ⑧臨床実習アンケート
  - ⑨基礎医学セミナーアンケート
- 総合医学教育センターでは、名古屋大学医学部の教員に向けて、「東海国立大学機構名古屋大学医学部FD」と称するFDを2021年度より実施し、双方向性の意見交換の場も設けている。学生の参加するFDも企画し、教員・学生のグループワークも含め、活発な討議が行われている。FDにて得られた意見は、その後の医学部医学科教育委員会等での議論にも反映されている。（詳細は5.2参照）

今後の計画
- 今後も授業評価、学生向けのカリキュラムおよび学修環境に関するアンケート（学修環境調査）、教員向けのカリキュラムおよび教育環境に関するアンケート（教育状況調査）など、教員と学生からの意見収集を定期的に実施していく。ま

た、この調査結果を内容的に可能な範囲で学生や教職員にも開示していく。
- 今後もカリキュラムの改善に向けたアンケートやFDの場を設けて、学生や教員と積極的な意見交換を実施していく。

改善状況を示す根拠資料
資料10　2025年度学生向け学修環境調査(2026年2月実施)
資料11　2025年度教員向け教育状況調査(2026年3月実施)

質的向上のための水準：部分的適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）
特記すべき良い点（特色）
· 学生アンケートを実施し、臨床実習カリキュラム開発の参考としている。
改善のための示唆
· 教員と学生からのフィードバックの結果を確実に利用して、教育プログラムを開発することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況
- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画
- 前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料
- 前項「基本的水準」と同じ

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準：部分的適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）
特記すべき良い点（特色）
· 卒業生に対して教育プログラムに関して試験的なアンケート調査を開始している。
改善のための助言
· 使命と学修成果、カリキュラム、資源の提供に関して、学生と卒業生の実績を確実に分析すべきである。

関連する教育活動、改善状況
- カリキュラム評価（IR）委員会では、在校生に向けた調査として下記の調査を定期的に実施し、医学部医学科教育委員会をはじめ該当の実施委員会、教授会へ報告を行っている。内容的に公開可能な結果は全学生および教職員に開示している。
  年1回実施
  ・学生に対する「ディプロマポリシー達成状況に関する自己評価」
  ・学生向け学修環境調査
  ・新入生アンケート
  各科目・実習終了後実施

・授業評価アンケート
・臨床実習アンケート
・基礎医学セミナーアンケート
・臨床実習で経験した医行為に関する調査

- カリキュラム評価（IR）委員会では2022年度以降、卒業生進路先調査・卒業生調査を定期的に実施している。2025年度は卒業生進路先調査を2026年5月に実施、卒業生調査は2025年10月に実施した。
  ・卒業生調査は、2022年度は全卒業生を対象とし、2023年度以降は卒後1年目・5年目・10年目・15年目の卒業生を対象としている。
  ・卒業生進路先調査は、卒後1年目の本学卒業生が在籍する医療機関等を対象とした。
  ・卒業生調査の調査項目には、「キャリアに関する質問」「学修成果の達成状況に関する質問」「カリキュラムへのフィードバック」が含まれる。
  ・2024年度からは、従来の設問に加えてテーマを設けた調査も追加しており、2025年度は「生涯学習につながったカリキュラム」についての設問を追加した。

  卒業生自身や卒業生進路先による本学卒業生のディプロマポリシー（学修成果）達成状況の継続的評価が開始されたことから、在学中のみに留まらず卒業後も継続して、長期的に学修成果の達成度を評価する体制が構築された。

今後の計画

- 引き続き卒業生進路先調査・卒業生調査を定期的に実施し、在学生のみならず卒業生の学修成果達成状況やキャリアを分析し、本学の教育改善に役立てていく。また環境や資源に関する調査も引き続き実施していく。

改善状況を示す根拠資料

資料03　2025年度卒業生を受け入れていただいた医療機関等へのアンケート調査
資料04　2025年度卒業生調査(2025年10月実施)

質的向上のための水準：部分的適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 学生の実績を分析し、責任がある委員会にフィードバックするためにカリキュラム評価（IR）委員会を2019年度に新たに設置している。

改善のための示唆

· 学生の背景と状況について、学生と卒業生の業績を分析することが望まれる。
· 学生の実績を十分に分析したうえで、学生カウンセリングについて責任がある委員会へフィードバックを提供することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 学生と指導教員との定期面談にあたっては面談記録を作成することが2020年度に決定されている。問題がある学生の情報は医学部医学科教育委員会にフィードバックされている。取得単位が不足するなど教育上の課題を抱える学生に対しては、個別の面談も実施している。
- カリキュラム評価（IR）委員会では、学務課と連携して、入試データや成績データなどの教学データの分析を行っている。

今後の計画

- 卒業生進路先調査・卒業生調査の定期的な実施により、卒業生の学修成果達成状況やキャリアを継続して評価していく。
- 教学IRデータ分析により、入試枠ごとの学生の背景と状況、学修成果等の達成状況に関する調査、学業成績との関連などを今後も継続して実施していく予定である。
- 学生と指導教員との面談記録の作成と、問題のある学生情報の医学部医学科教育委員会への提供は、今後も運用を重ねていきながら、必要な見直しを行っていく。

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準：適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· カリキュラム評価（IR）委員会に、全学年から学生代表が委員として選出されている。

改善のための助言

· 医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会の学生を含む構成員は、独立性を担保すべきである。
· 学生委員が継続して主体的に議論に参加すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- カリキュラム評価（IR）委員会では、学生代表、附属病院看護部、全学教育基盤連携本部高等教育研究センター教員、名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク役員、他大学教員などを委員に含めることを規定しており、同委員会での議論に参加している。
- 2022年度以降は医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会に参加する学生委員が重複しないように選出することとし、全学年から1名～2名が学生委員として参加している。
- 名古屋大学医学部では「東海国立大学機構名古屋大学医学部FD」と称するFDを実施し、岐阜大学教員や学生の参加も認めている。学生の参加も増え、教員と学生のグループワークも含め、活発な討議が行われるようになっている。（詳細は前述5.2参照）
- 2022年度～2025年度の新カリキュラム改訂にあたっては、新カリキュラム公開検討会を開催し、学生や教育関係者の意見を求めながら、令和4年度版コアカリの内容も踏まえたカリキュラム改変にあたった。
- カリキュラム評価（IR）委員会では、2021年度より学生、卒業生、卒業生進路先に対し本学のカリキュラム等への意見調査を定期的に実施し、医学部医学科教育委員会をはじめ該当の実施委員会、教授会へ報告を行っている。内容的に公開可能な結果は学生や教職員、卒業生、卒業生進路先関係者に開示している。

今後の計画

- 引き続き、カリキュラム評価（IR）委員会に対する学生委員の積極的な参加と発言を促していく。
- 引き続き、FD、公開検討会等の学生が参加しやすい場・発言しやすい場を設けていく。
- 今後もカリキュラム評価（IR）委員会の各種アンケートによる学内外からの意見収集を定期的に実施していくとともに、調査結果についても内容的に可能な範囲で学生、教職員、卒業生、卒業生進路先関係者等に開示していく。

改善状況を示す根拠資料

資料12　2025年度医学部医学科教育委員会名簿
資料13　2025年度医学部カリキュラム評価（IR）委員会名簿

質的向上のための水準：部分的適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」から、卒業生の実績に関する情報を得ている。

改善のための示唆

· 広い範囲の教育の関係者に、卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- カリキュラム評価（IR）委員会では、2022年度から卒業生の進路先医療機関に対し、「名古屋大学医学部卒業生を受け入れていただいた医療機関等へのアンケート調査」を実施し、下記の3項目について調査している。調査は東海地域の関連病院だけでなく、卒業生が就職した全国の医療機関に対して実施している。
  - ・ 本学の卒業生の強み
  - ・ 本学の卒業生の弱み（教育を強化すべき点）
  - ・ ディプロマポリシー各項目達成度

  このように、カリキュラム評価（IR）委員会が中心となって、定期的に調査を実施し、卒業生の実績や学部教育プログラムに対する関係者からの評価を積極的に得て、その結果を卒業生や関係者にも公開するとともに、医学部医学科教育委員会や教育を担当する教員にフィードバックし、教育プログラムの改善に繋げている。

  学内および卒業生に公開しているデータとしては以下がある。
  - （雇用先向け）雇用先（初期研修先）調査
  - （卒業生向け）名古屋大学医学部卒業生アンケート
  - （岐阜大学との共通）卒業時アンケート
  - （新入生向け）新入生アンケート
  - 学生を対象とした学修成果（ディプロマポリシー）達成状況自己調査

今後の計画

- 引き続き各種アンケート調査の定期的な実施により、卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを学内・学外の幅広い教育関係者に求めていくとともに、その結果を教員や卒業生などにも適切に公開していく。

改善状況を示す根拠資料

資料03　2025年度卒業生を受け入れていただいた医療機関等へのアンケート調査
資料04　2025年度卒業生調査(2025年10月実施)

8. 統轄および管理運営

領域 8-統轄および管理運営における「改善のための助言・示唆」を受け、教育活動の増大に対応した事務組織の充実や業務の効率化が今後の課題といえる。

8.1 統轄

基本的水準：部分的適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

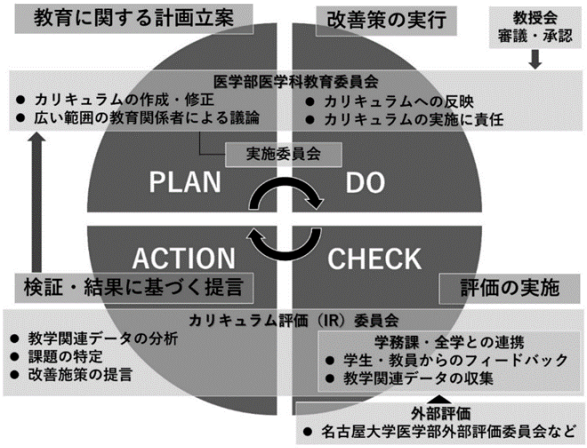
特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための助言

- 医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会の役割をより明確に規定すべきである。
- 総合医学教育センターの位置づけをより明確に規定すべきである。

関連する教育活動、改善状況



- 名古屋大学医学部では上記図のように、カリキュラム評価（IR）委員会が「評価の実施」と「検証・結果に基づく提言」を担当し、医学部医学科教育委員会が「教育に対する計画立案」と「改善策の実行」を担当することで、教育PDCAサイクルを回している。カリキュラム評価（IR）委員会からの様々な提言を受けて、医学部医学科教育委員会では、種々のカリキュラムや教育環境の改善に取り組んでおり、実際の教育プログラム改善活動を通じて両者の役割分担が明確になってきている。
- 2022年度以降は医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会に参加する学生委員が重複しないように選出することとし、両者の独立性を高めている。

今後の計画

- 引き続き、実質的な活動を通じて、医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会の担う役割を明確にしていく。

- 卒前卒後教育のシームレス化も踏まえて、卒後臨床研修・キャリア形成支援センター教育専任教員の一部教員が総合医学教育センター兼任になるなど、総合医学教育センターの担う役割がより多様化している。現在は医学科や附属病院とは独立して医学部直属の組織となっているが、その役割や、組織上の位置づけも含めて見直しを行っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料12　2025年度医学部医学科教育委員会名簿
資料13　2025年度医学部カリキュラム評価（IR）委員会名簿

質的向上のための水準：部分的適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための示唆

- 教育活動を担う医学部医学科教育委員会に、広い範囲の教育の関係者の意見を反映することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 特になし

今後の計画

- 医学部医学科教育委員会の外部委員の見直しを検討していく。

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

8.2 教学

基本的水準：適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための助言

- なし

関連する教育活動、改善状況

- 特になし

今後の計画

- 特になし

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

質的向上のための水準：適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）
特記すべき良い点（特色）
・　なし
改善のための示唆
・　なし

関連する教育活動、改善状況

- 2023年12月には、5年ごとに実施されている名古屋大学医学部・医学系研究科外部評価委員会による外部評価を受審した。この外部評価は病院機能を持ち、診療面での評価も求められる医学部において、独自に実施しているものであり、東京大学、三重大学、東北大学、大阪大学、岐阜大学の教授5名と民間（日本放送協会）の5名の委員が、学部教育、大学院教育、研究、診療、業務運営の5点について自己評価に基づいて評価しており、執行部のリーダーシップもその評価対象となっている。この外部評価の自己点検評価報告書は2024年3月に発刊し、ホームページにも掲載している。
- 2024年11月、名古屋大学医学部附属病院は、JCI（Joint Commission International）による国際基準での病院機能評価を受審し、認証を得た。同評価では医学専門教育へのリーダーシップについてのインタビューを含む審査があり、適切な教育環境の提供や患者安全のために病院執行部が適切に関与しているかという点についても評価され、附属病院の臨床教育へのガバナンスについても審査基準に適合しているとの評価を得た。

今後の計画

- 特になし

改善状況を示す根拠資料

冊子資料③　2024年3月 外部評価報告書(学部教育部分 抜粋)
資料81　JCI(Joint Commission International)認定書について

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準：適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）
特記すべき良い点（特色）
・　配分された予算を予算委員会ならびに教授会で透明性を持って配分している。
改善のための助言
・　なし

関連する教育活動、改善状況

- 共用試験公的化などの新たな要請に、予算面および人員面で十分に対応していくため、名古屋大学医学部では2022年度より、東海国立大学機構教育連携推進室を立ち上げて、事務職員および医療専門職（看護師）を配置しており、共用試験

OSCEの準備・運営にも関わっている。このモデルについては、学務課の業務負担の増加を防ぎながら、質の高い共用試験を実現し、かつライフイベントで悩む病院看護師のキャリアの選択肢を提供することにもつながった。

- OSCEの準備・運営にあたっては、2022年からは同じ東海国立大学機構に所属する岐阜大学医学部とお互いのOSCE実施時に人員を出し合うことで、担当者の負担軽減と質の高いOSCEの運営を両立している。2024年度も、両大学間でのPre-CC OSCE・Post-CC OSCE へ運営補助者（2～3名）派遣が行われた。

今後の計画

- 共用試験公的化の本格的な導入を踏まえ、予算と人的資源の適切な確保・配分を引き続き実施していく。

改善状況を示す根拠資料

特になし

質的向上のための水準：適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 予算委員会と教授会が透明性を持って予算を配分している。

改善のための示唆

· 社会の健康上の要請を十分に考慮して資源を配分することが期待される。

関連する教育活動、改善状況

- 2023年度から6年間の予定で文科省の「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン（東海がんプロ）」に採択され、東海地方のがん専門医療人材（医師だけでなく、緩和ケア、予防医療に携わる人材も含む）を育成している。



- 2023 年度～2025 年度にかけて、本学は文部科学省による「質の高い臨床教育・研究の確保事業」に採択され、「スペシャリストの継続的育成によるサステナブルな臨床教育・研究力の強化事業」を実施した。
  - 本事業では、社会の求める臨床実習の充実や臨床研究の充実を目的として、シミュレーション教育や臨床研究教育のための人員の雇用や、資材の確保などを行った。
- 2024 年度～2030 年度にかけて、本学は文部科学省による「高度医療人材養成拠点形成事業」に採択され、医師の働き方改革を進めながら、医学生及び医学系大学院生に対して、大学病院において、効果的な臨床実習の実施や、研究活動に参画する機会を確保する取組を行っている。

今後の計画

- 資源配分にあたっては外部資金も活用しながら、社会の健康上の要請も引き続き考慮していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 09　文科省 質の高い臨床教育・研究の確保事業「スペシャリストの継続的育成によるサステナブルな臨床教育・研究力の強化事業」2025 年度報告書

8.4　事務と運営

基本的水準：適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· なし

改善のための助言

· 教育活動の増大に対応して、さらに事務組織を充実させるべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 共用試験公的化などの新たな要請に、予算面および人員面で十分に対応していくため、名古屋大学医学部では2022年度より、東海国立大学機構教育連携推進室を立ち上げて、事務職員および医療専門職（看護師）を配置しており、共用試験OSCEの準備・運営にも関わっている。このモデルについては、学務課の業務負担の増加を防ぎながら、質の高い共用試験を実現し、かつライフイベントで悩む病院看護師のキャリアの選択肢を提供することにもつながった。
- 2023年度～2025年度にかけて本学は文科省公募事業である「質の高い臨床教育・研究の確保事業」に採択され、「スペシャリストの継続的育成によるサステナブルな臨床教育・研究力の強化事業」が実施された。その事業の一環として、シミュレーションスペシャリストの育成がある。ライフイベントにより病棟や外来での勤務が困難となり離職を考えている看護師をシミュレーションスペシャリストとして育成し、シミュレーション教育の運営（指導や教育動画の作成など）を担う体制となった。

今後の計画

- 事務職員の拡充は昨今の国立大学法人の状況から厳しいが、ICTの活用による業務

の効率化や、業務の適切な分配に引き続き努めていく。

改善状況を示す根拠資料

資料09　文科省　質の高い臨床教育・研究の確保事業「スペシャリストの継続的育成によるサステナブルな臨床教育・研究力の強化事業」2025年度報告書

質的向上のための水準：適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための示唆

・　なし

関連する教育活動、改善状況

- 2023年12月には、5年ごとに実施されている名古屋大学医学部・医学系研究科外部評価委員会による外部評価を受審した。この外部評価は病院機能を持ち、診療面での評価も求められる医学部において、独自に実施しているものであり、東京大学、三重大学、東北大学、大阪大学、岐阜大学の教授5名と民間（日本放送協会）の5名の委員が、学部教育、大学院教育、研究、診療、業務運営の5点について自己評価に基づいて評価しており、業務運営にあたっての事務組織の体制もその評価対象となっている。この外部評価の自己点検評価報告書は2024年3月に発刊し、ホームページにも掲載している。

今後の計画

- 国立大学法人評価などの外部評価や名古屋大学内の業務実績に関する現状分析を引き続き継続し、定期的な管理運営の見直しを行っていく。

改善状況を示す根拠資料

冊子資料③　2024年3月　外部評価報告書(学部教育部分　抜粋)

8.5　保健医療部門との交流

基本的水準：適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

・　なし

改善のための助言

・　なし

関連する教育活動、改善状況

- 1年生を対象に実施される「医学入門」においては、愛知県保健医療局の技監が「行政における医師の役割」について講義している。また、「地域医療学」の講義では、同じく愛知県保健医療局の担当者が「愛知県の地域医療」について講義

している。さらに、「保健医療の仕組みと公衆衛生」の講義においても、保健所および厚生労働省の講師による講義が実施されている。3年生の社会医学実習で保健所や市町村保健センター、検疫所などの見学を実施している。

- 地域枠入学者については、地域医療教育学講座が基礎医学セミナーの配属研究室となり、地域医療研究を指導している。
- 2025年度も引き続き、2022年度に文部科学省によるポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業に採択された名古屋大学は岐阜大学と共同の「医療人類学とバーチャル教育を活用した屋根瓦式地域医療教育（NOVI+A）」を実施した。具体的には医療人類学、バーチャル教育、屋根瓦式地域医療教育をキーワードとして、地域枠医学生向けの特別プログラム、及び全医学生を対象とした地域医療教育を企画しており、2023年度から運用を開始し、2025年度も引き続き実施している。（詳細 は前述2.4参照）

今後の計画

- 引き続き、愛知県・名古屋市をはじめとした地域の保健医療部門との協働に努めていく。

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

質的向上のための水準：適合

質的向上のための水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

· 地域枠学生を含め、愛知県との協働体制が構築されている。

改善のための示唆

· 愛知県、名古屋市など保健医療関連部門とのさらなる協働が期待される。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

9. 継続的改良

領域 9-継続的改良における「改善のための助言・示唆」を受け、医学教育の実施、評価、改善のサイクルの充実を図り、継続的な改良を進めることが今後の課題といえる。

基本的水準：適合

基本的水準に対する前回の評価結果（2021年受審）

特記すべき良い点（特色）

- 医学部医学科教育委員会に加えてカリキュラム評価（IR）委員会を設置して、教育を見直し、改善する体制を整えている。

改善のための助言

- 今後も継続して課題を特定して、修正すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 前述　領域1～8記載のとおり

今後の計画

- 前述　領域1～8記載のとおり

改善状況を示す根拠資料

- 前述　領域1～8記載のとおり

質的向上のための水準：評価を実施せず

関連する教育活動、改善状況

- 前述　領域1～8記載と同じ

今後の計画

- 前述　領域1～8記載と同じ

改善状況を示す根拠資料

- 前述　領域1～8記載のとおり